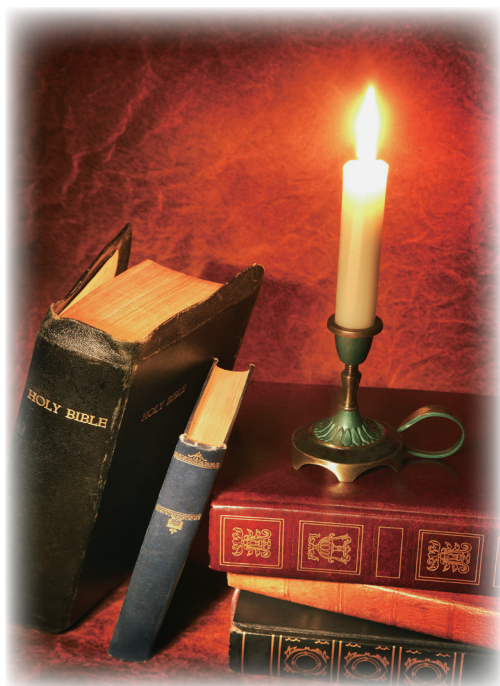


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 12月

「イエスのうちにあるがままの真理（Ⅱ）」 「栄光の王国」 「個人と教会の清め」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「イエスのうちにあるがままの真理(Ⅱ)」 4

朝のマナ

「栄光の王国」 7
神の驚くべき恵み

現代の真理

「個人と教会の清め」 39
最後の出来事

力を得るための食事

「なすの詰めもの-しょうが風味-」 48

お話コーナー

「大きな、大きな愛」 50

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>
メール：support@4angels.jp

発行日 2012年11月30日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: 1765586HighRes on front cover;
iStock_000006980 on page 56

神と完全に一致することを

エズラはアロンの家系の者であったので、祭司としての訓練を与えられていた。……しかし彼は、自分の霊的状态に満足していなかった。彼は神と完全に一致することを熱望したのである。彼は神のみこころを実行に移す知恵を熱望したのである。エズラは「心をこめて主の律法を調べ、これを行」おうとした（エズラ記 7:10）。そのために彼は、預言者と王の書物の中に記された、神の民の歴史を熱心に研究するようになった。彼は聖書の歴史的部分と詩的部分とを調べ、なぜ神は、エルサレムが破壊され、神の民が異教の地に連れ去られるのを許されたのかを知ろうとした。

エズラはアブラハムに約束が与えられた時以来の、イスラエルの経験を特別に考えた。彼はシナイ山において与えられた教えと、長い荒野の放浪期間を通じて与えられた教えとを研究した。神が民を扱われる方法についてますます研究を深め、シナイにおいて与えられた律法の神聖さを理解するにつれて、エズラの心は感動した。彼は新たに徹底的改心を経験して、聖なる歴史に精通しようと決心した。それは彼がこの知識を用いて、彼の民に祝福と光をもたらすためであった。

エズラは彼の前にあると信じた働きのために、心の準備をしようと努力した。彼は熱心に神を求め、イスラエルの賢明な教師になろうとした。彼が神の支配に心と意志を従わせることを学んだときに、彼の生活に真の聖化の原則が生じた。そしてこれは、後年彼の教えを請うた青年たちだけでなく、彼に接したすべての人々に品性建設上の感化を及ぼしたのである。……

聖書研究熱を復興しようとするエズラの努力は、聖書を保存し増加させようとする骨の折れる、彼の生涯の事業として永続的なものとなった。彼は集め得るすべての律法の書を集め、それらを写して配布したのである。こうして増加されて多くの人々の手に渡された純粋な言葉は、計り知れない価値のある知識を与えたのである。（国と指導者下巻 211, 212）

わたしたちの罪を負われる神聖なお方キリスト

イエスのうちにあるがままの真理 (II)

前進をやめてはならない

わたしたちは決して満足して休み、「わたしは救われている」と言って前進をやめてはならない。この考えをいざくと、見張り、祈り、より高いところへ到達するために前進するための熱心な努力はなくなってしまう。聖化された舌は、キリストが来られて、わたしたちが神の都へ門をくぐって入るときまで、これらの言葉を口にするのではない。そのときには、永遠の救出のゆえに神と小羊に栄光を帰することは、この上なくふさわしい。人が弱さに満ちている間一なげなら、自分では自分の魂を救うことはできないのだから一決して、「わたしは救われている」と言うべきではない。

武器をつけている者は、勝利を誇ることはできない。なぜなら、彼には勝利を得るために戦うべき闘いがあるからである。救われるのは、最後まで耐え忍ぶ人である。主は、「もし信仰を捨てるなら(もし退歩するなら)、わたしのたましいはこれ(その人)を喜ばない」と言われる(ヘブル 10:38)。もしわたしたちが勝利から勝利へ前進しないなら、魂は滅亡へと退歩するのである。わたしたちは品性を測るために人間の標準をかかげてはならない。わたしたちはこの低い地上では人が完全だと呼ぶものをいやというほど見てきた。神の聖なる律法だけが、わたしたちがこのお方の方法を守っているかどうかを決定することのできる唯一のものである。もしわたしたちが不従順であるなら、わたしたちの品性は神の統治の道德律と調和していないのであって、「わたしは救われている」と言うのは、偽りを述べることである。天地におけるこのお方の統治の基礎である神の律法の違反者は、だれも救われないのである。

知らずに敵の隊列に加わり、説教壇に立って、神の律法はもはや人類家族を拘束してはいないという自分たちの宗教教師の言葉をこだまさせている人々は、もし彼らが神のみ言葉の証拠を受け入れるならば、自分たちの過ちを発見する光を持つようになる。イエスは昼は雲の柱に、夜は火の柱に包まれた御使であられた。そして、このお方はヘブル人が、地の基がおかれ、明けの星が相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわったときに与えられた神の律法を教えるべきである

との特別な指示をお与えになった。

同じ律法が荘厳さのうちに、シナイからこのお方ご自身のみ声によって宣布された。「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。またあなたはこれをあなたの手につけてしるしとし、あなたの目の間に置いて覚えよ」とせよ（申命記 6:6-8）。律法が述べられるとき、神の律法の違反者たちはなんと短気になることであろう。彼らはそれらについて語られるといらだつ。

神のみ言葉は偽りと伝統によって無効にされている。サタンは神の律法の自分版を世に提示してきた。そして、これが率直な「主はこう言われる」よりも優先して受け入れられている。神の律法をめぐって天で始まった争闘は、サタンが天から追放されて以来、地上で続けられてきた。

わたしたちは、自分たちの救い主を感謝し、他の人々にこのお方を知らせるために、自分たちの大いなる必要を絶えず知らなければならない。わたしたちが自分たちの不法の深さを知ることができるのは、わたしたちを引き上げるためにおろされた鎖の長さによってのみである。わたしたちは罪が自分たちにもたらした恐るべき墮落を理解するという働きに、自分たちの知力を注ぐべきであり、またわたしたちが神の恩寵へ回復されることができるとの神聖なご計画を理解するよう努めるべきである。わたしたちがご自分のみ名のうちに勝利する力を得ることができるよう、神のいとしい御子がわたしたちの闘いをたたかうためにこの世に来なければならなかったということが、いつもわたしたちの誇り高い心をへりくだらせるべきである。もしわたしたちがカルバリーの十字架を見るならば、すべての自慢はわたしたちの昏で死滅し、「汚れた者、これほど大きな犠牲に、すなわちわたしのあがない代のために支払われた高価な代価に値しない者」と叫ぶようになる。

無知と自己満足は手に手を携えていく。神の律法はわたしたちのふるまいを統制するために与えられたのであり、その原則は遠くにまで及ぶ。律法の有罪宣告をまぬかれる罪や不義のわざはない。偉大なさだめの書は真理であり、真理だけである。なぜなら、それは誤ることのない正確さで、サタンの欺瞞の歴史と彼に従う者の破滅を描きだすからである。サタンは神の定めやさばきより良い律法を提示できると主張した。そして、彼は天から追い出された。彼は地上でも似たようなことを試みている。彼の墮落以来、いつも彼は世を欺き、人を墮落に導くために努力してきた。それによって自分が打ち負かされ、天から押し出された恨

みを神に対して晴らすためであった。神がおられるべきところに、自分自身と自分の策略をおこうとする彼の努力は、もつとも辛抱強くてゆまないものである。彼は自分のわなに世を捕らえた。そして多くの者は、神の民でさえ、彼の策略に無知であって、サタンが魂の破滅のために働く願ったりかなったりの機会を与えてしまう。彼らはイエスを掲げて、滅びつつある群衆に「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と宣布する燃えるような熱意を表わさない。

山上で詳細に述べられた神の統治の律法を知らない人々は、イエスのうちにあるがままの真理も知らない。キリストは律法の遠大な原則を明らかにされた。このお方はご自分の模範のうちにすべての規則を詳細に述べ、すべての要求を提示された。律法のうちにあるがままの真理を知っている人は、イエスのうちにあるがままの真理を知っている。そしてもしキリストを信じる信仰を通して彼が神の戒めへの従順を捧げるなら、彼の命は、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

律法の要求の知識は、もし人のために備えられた救い主がおられなければ、希望の最後の光線を打ち砕いてしまう。しかし、イエスのうちにあるがままの真理は、命から命へ至る香りである。神のいとしい御子は人にご自身の義を着せるために死なれたのであって、サタンが人に信じさせようとしているように、人が自由に神の聖なる律法を犯すことができるためではなかった。キリストを信じる信仰を通して、人は、悪に抵抗する道德力を持つことができる。

一生の働きである聖化

聖化の働きは一生の働きである。それは継続しなければならない。しかし、この働きは真理のどの部分でも拒まれたり、なおざりにされたりしている間は、心の中で進められることができない。聖化された魂は、無知のままに満足しない。かえって光のうちに歩むことを望み、より大きな光を求める。鉱夫が金銀を求めて掘るように、キリストに従う者も真理を隠された宝のように求める。そして光からより大きな光へ押し進み、絶えず知識を増し加える。彼は絶えず、恵と真理の知識のうちに成長する。自己は克服されなければならない。品性のすべての欠点は、神の偉大な鏡のうちに識別されなければならない。わたしたちは神の品性の標準によって責められていないか発見することができる。

もしあなたが罪に定められているなら、取るべき道は一つしかない。あなたは神の律法の違反のゆえに神に対して悔い改め、また罪から清めることのおできに

なる唯一のお方としてわたしたちの主イエス・キリストに対する信仰を持たなければならぬ。もしわたしたちが天を獲得したいのであれば、神の聖なるご要求に従順でなければならぬ。律法にかなって奮闘する者は、その奮闘がむなしく終わることはない。イエスのうちにあるがままの真理を信じさえすれば、あなたは闇の権力との闘いのために強められる。いにしへの競技者たちは、朽ちる冠を得るために奮闘した。そうであれば、衰えることのない冠を得るために、わたしたちは奮闘すべきではないであろうか。

サタンのすべてのわざと策略が、わたしたちの破滅のために用いられるであろう。もしあなたが「わたしは救われている」と口にしながら、愛する人々と座し、神の戒めに注意を払わないならば、あなたは永遠に失われることになる。イエスのうちには、安逸を愛し、何もしない人々にとっては恐るべき真理がある。イエスのうちには、従順な者には安心するような喜びに満ちた真理がある。それは聖霊の喜びである。そうであれば、あなたが神の御座から輝くすべての光線を認めることができるように、思いと心を開くために確信しなさい。

無関心になったり、不注意になったり、娯楽を愛したりする時間はない。キリストは力と大いなる栄光をもって来られる。あなたは準備ができているであろうか。あなたは自分の罪を捨て去っているであろうか。あなたはキリストの祈りへの答えのうちにある真理を通して聖化されているであろうか。このお方はご自分の弟子たちに関して、「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」と祈られた(ヨハネ 17:17)。

親は自分の子供たちを主の薫陶と訓戒とによって育て、神のみ旨を行うことを愛するように教育すべきである。わたしたちは若い敬神の優位性を評価してもすぎることはない。若い時に受けた印象は、多くの人々にとってほとんど永久に持続する。魂の板に神のさだめと戒めがたやすく刻まれるのは若い時である。子供の指導がおおいになおざりにされている。キリストの義が彼らに提示されるべきほど、提示されてこなかった。

恩恵期間は、わたしたちが永遠のためにふさわしい品性を完成するために与えられている。ご両親がた、あなたがたの子らが選ぶままに、神に是認される品性か、もしくはサタンとその使たちが翻弄(ほんろう)することのできる品性を発達させるために、あなたがたが教育し、訓練すべき子供たちがその手中にいるとは、なんと厳粛な思想であろう。イエスは雲と火の柱から、語られ、自分の子供たちに神の戒めについて勤勉に教えるよう、ご自分の民にお命じになった。こ

の指示に従っているのはだれであろうか。だれが自分の子供たちを、神が是認される者にしようと努めているであろうか。だれが、自分の子供たちのすべてのタラントと賜物は神に属するものであり、完全に神のご奉仕に捧げられるべきものであるとの考えを心にとめているであろうか。

ハンナはサムエルを主にお捧げした。そして、神はご自身を彼の幼年時代と青年時代にあらわされた。わたしたちははるかにもっと自分の子供たちや青年たちのために労さなければならない。なぜなら神は、外国の地にいる人々や誤謬と迷信の闇の中にいる人々に真理を教えることにおいて、彼らのご自分の御名のうちに大いなることをするためにお受入れになるからである。もしあなたが自分の子供たちを甘やかして、わがままな願いを聞き入れたり、彼らのうちに衣服の愛着を増長させたり、虚栄や誇りを発達させたりしているなら、あなたは彼らの贖いのために無限の代価を払われたイエスを失望させることになる。このお方は子供たちが一途な愛情をもってご自分に仕えることを望んでおられる。

ご両親がた、あなたがたのためにすべてをなして下さったイエスのためになすべき大いなる仕事がある。このお方をあなたの案内者かつ助け手としなさい。神はあなたに与えなくてはならない最上の賜物—ご自分のひとり子—を差し控えられなかった。子供たちや青年たちは、イエスの許へ来ることを阻まれるべきではない。サタンは、子供たちを鉄の帯のように自分自身につなごうとしている。であるから、あなたは断固とした個人的な努力を通してのみ、イエスの許へ彼らを連れていくことに成功できる。子供たちと青年たちのためにもっと真剣に労すべきである。なぜなら、彼らは教会の希望だからである。ヨセフ、ダニエルとその友達、サムエル、ダビデ、ヨハネ、またテモテは、「主を恐れることは知恵のもとである」(箴言 9:10) という事実を証する輝かしい实例である。

わたしたちはもし主イエスに助言者また助け手として、わたしたちと共に宿ってほしいならば、もっと真剣で断固とした努力をなすべきである。カルバリー上で神の御子から輝く光は、すべてのさまよう人々を家へ導くことができる。このお方のうちには心を清め、品性を変える力がある。すべての真のクリスチャンは子供たちと青年たちのために働き、彼らの前にイエスの比類のない麗しさを提示しなさい。そのとき、世の魅力と幻想はうせ、彼らは不従順の道で得るべき優位性を何も認めなくなる。

レクテッド・メッセージ 1 卷 314 ~ 319

神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



12月 「栄光の王国」

そのみわざに見られる神の栄光

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ。」(イザヤ 6:3)

創造主のみ手によってつくられたときには、エデンの園だけでなく、全地のいたるところが限りなく美しかった。美しい創造を傷つけるような罪の汚れや死の影はどこにもみられなかった。神の栄光は、「天をおおい、そのさんびは地に満ち」「明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった」(ヨブ 38:7)とある。このように地は「いつくしみと、まこととの豊かなる神」の象徴としてふさわしく、神のみかたちにかたどってつくられた人間が学ぶのにふさわしかった。エデンの園は、全地をこのようにしたいという神のご希望のあらわれであった。人類家族の数がふえるにしたがって、エデンの園で神からあたえられたのとおなじような他の家庭や学校を設けるようにというのが神のみこころであった。こうして全地は、時がたつにつれて、神のみ言葉とみわざを学ぶ家庭や学校で満たされ、生徒たちは、永遠にわたって、神の栄光を知る光を、ますます深く反映するのにふさわしい者となるはずであった。(教育 12)

アダムが創造主の手によってつくられたとき、彼の肉体と知能と霊性は、神のみかたちをそなえていた。「神は自分のかたちに人を創造された」(創世記 1:27)とされる。神の御目的は、人が長く生きれば生きるほど、ますます、はつきりと神のみかたちをあらわすこと、すなわちなおいつそう明らかに創造主の栄光を反映することであった。人間のあらゆる才能は発達することが可能であって、それらの才能の能力と活力はたえず増大することになっていた。そうした才能を働かせるために、広い機会が与えられ、研究のために輝かしい分野が開かれていた。目に見える宇宙の神秘、すなわち、「知識の全き者のくすしみわざ」(ヨブ 37:16)が人の研究を招いていた。創造主と顔をあわせて、心と心の交わりをすることが、アダムのとうい特権であった。もし彼が、神への忠誠心を変えなかったなら、この特権は、永久に彼のものとなつたであろう。彼は、永遠にわたってたえず知識の新しい宝を手に入れ、幸福の新しい泉を見いだし、神の知恵と力と愛についていよいよ明らかな概念を持ちつづけたであろう。アダムが、創造された目的を十分に果たせば果たすほど、創造主の栄光は、ますますはつきり反映されたであろう。(教育 4)

人は神の栄光のために創造された

「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(コリント第一 10:31)

神はご自身の栄光のために人間を創造された。テストと試験の後、人類家族は天の家族と一つになるのであった。もし彼らが神のすべての言葉に自らが従順であることを示すなら、人類を天国に住ませるのが神のご目的であった。アダムはテストされて、彼が忠実な天使たちのように従順であるか、あるいは不従順であるかが確かめられるようになっていた。もし彼がテストに耐えたなら、子供たちへの彼の指導は忠誠だけであつたであろう。彼の思いと思想は、神のみ思いと思想に一致していたことであろう。……

神は、純粹でまっすぐに、そしてご自身の品性に似る者としてアダムをお造りになった。第一のアダムには、墮落した原則、墮落した性癖あるいは悪への傾向がなかった。アダムは神の御座の前に天使と比べて同じくらい完全無欠であった。これらのことは説明しがたい。しかし今わたしたちが理解することができない多くのは、わたしたちが見られているように見、知られているように知るとき、明らかにされるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. ホブ・コムト II 卷 1082, 1083])

古代の聖なる人々について、神が彼らの神と呼ばれてもそれを恥とはされなかったことが記録されている〔ヘブル 11:16 参照〕。なぜかといえばその理由は、彼らが地上の財産を熱望したり世的な名誉や切望に幸福を求めたりする代わりに、自分たちのすべてを神の祭壇の上に置き、このお方の王国を建てるためにそれを譲り渡したからである。彼らはただ神の栄光ために生き、地上では、自分たちは天国にあるより良い国を求めている旅人であり、巡礼者であるとはっきり宣言した。彼らの行為はその信仰を表した。神はご自分の真理を彼らに委ね、世がご自分のみ旨についての知識を彼らから受けるよう任せることがおできになった。

しかし今日、神の民と称する人々はこのお方のみ名の名誉をどのように維持しているのだろうか。世は彼らが特殊な民であると、どのように推定することができるのだろうか。彼らは天の市民であるというどのような証拠を与えるのだろうか。……

ピューリタンの質素と単純さが、この時代のための厳粛な真理を信じるすべての者の住まいと衣服を特徴づけるべきである。……わたしたちの衣服、住居、会話は、わたしたちの神への献身を証すべきである。このように神のためにすべてを明け渡しているという証拠を示す人々には、どれほどの力が伴うことであろう。(教会への証 5 卷 188, 189)

栄光に満ちた神のご計画

「それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである。」(ロマ 5:21)

人類の救いが達成される唯一の計画は、その無限の犠牲に全天を包んだものであった。キリストが、贖罪の計画を示されたとき、天使たちは、喜ぶことができなかった。というのは、人間の救いのために、彼らの愛する司令官が言葉に表わせない苦悩をなめなければならないことを知ったからである。キリストが、天の純潔と平和、歓喜と栄光、そして、永遠の命を去って地に下り、墮落した人々と接し、悲しみと恥と死を経験しなければならないことを語られたとき、天使たちは、悲しみと驚きをもって彼の言葉に耳を傾けた。キリストは、罪人の仲保者として、罪の罰をお受けになるのであった。それにもかかわらず、彼を神の子として受け入れるものはわずかであった。彼は、天の王としての高い地位を捨て、人間として地上にあらわれて、自分を低くし、人間が耐えなければならない悲しみと誘惑を、経験によってお知りになるのであった。これは、みな、彼が試みられている者を助けるために必要であった(ヘブル 2:18 参照)。キリストは、教師としての任務を終えたあとで、悪者どもの手に渡されて、彼らがサタンにそそのかされて行なうあらゆる侮辱と苦痛を受けなければならなかった。彼はとがある罪人として天と地の間にあげられ、最も残酷な死をとげなければならなかった。彼は、天使たちが、見るにたえかねて、顔をかくすほどの恐ろしい苦痛を長時間味わわなければならなかった。彼は律法を犯した罪、すなわち全世界の罪の重荷を背負うとともに、魂の苦悩と父のみ顔が隠されることにも耐えなければならなかった。……

キリストは、父が承認なさった計画に天使軍が同意することを命じ、彼の死によって、墮落した人間が神と和解することができることを喜ぶようにお命じになった。

そのとき、喜び一口では表現することのできない喜びが天に満ちた。贖われた世界の栄光と幸福は、いのちの君の苦痛と犠牲をはるかに越えたものであった。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」(ルカ 2:14)と。(人類のあけぼの上巻 54～56)

天の王国の縮図

「イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。」(マタイ 17:1, 2)

夕暮が近づいてくると、イエスは、弟子たちの中からペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人をそばにお呼びになり、彼らの先頭に立って野を横切り、けわしい道をのぼって、さびしい山の中腹へと行かれる。……

悲しみの人イエスは、彼らからちょっとわきへ退いて、強い叫びと涙とをもって嘆願をおささげになる。彼は人類のために試練に耐える力を祈り求められる。……主はまた暗黒の力の時に弟子たちの信仰が衰えることがないように、彼らの上に思いをよせて、みこころをそそぎ出される。……

イエスの祈りの主題は、世がある前からイエスが父と共に持っておられた栄光のあらわれが彼らに示されるようにということ、またイエスのみ国が人間の目に示されるようにということ、そしてまた弟子たちがそれを目に見て強められるようにということである。イエスがたしかに神のみ子であって、その恥辱的な死は、あがないの計画の一部であるということを知ることによって、イエスの苦悶の絶頂の時に彼らに慰めが与えられるように、イエスの神性のあらわれを彼らの目に見せてくださるようと、イエスは祈り求められる。

イエスの祈りは聞かれる。主がへりくだった心で石だらけの地面にひざまずいておられると、突然に天が開け、神の都の黄金の門があげ放たれ、聖なる光の輝きが山の上にくだって、救い主のおからだをつつむ。内部の神性が人性をつらぬいて光を放ち、天からくだった栄光と一つになる。ひれ伏した姿勢から起き上って、キリストは、神らしい威厳をもってお立ちになる。魂の苦悩は過ぎ去った。主のお顔はいま「日のように輝き、その衣は光のように白くなった」(マタイ 17:2)。

弟子たちは、目をさまして、山を照しているまばゆい栄光を見る。恐れと驚きのうちに、彼らは光り輝く主のおからだをみつめる。……イエスのそばにはふたりの天の人がいて、イエスと親しく話をかわしている。このふたりは、シナイ山上で神と語ったモーセと、……高い特権を与えられて死の力を受けなかったエリヤであった。……山の上で、キリストを王とし、モーセをよみがえった聖徒たちの代表者とし、エリヤを天に移された人たちの代表者として、未来の栄光の王国が縮図で示されたのであった。(各時代の希望中巻 190～194)

なお未来のできごと

「御国がきますように。」(マタイ 6:10)

キリストの弟子たちは、神の栄光のみ国がすぐに来るものと期待していたが、イエスは、この祈りを彼らにお与えになることによって、み国は、その時代に建設されるべきものでないことをお教えになった。彼らはみ国の出現をなお未来のできごととして祈り求めるのであった。しかし、この祈願は彼らに対する保証でもあった。彼らは、自分たちの時代にみ国の出現を見ることはできなかったが、イエスが彼らにそのことを祈るようにと言われたことは、神ご自身がお定めになる時に、み国が必ず来るという証拠である。

神の恵みのみ国は、罪と反逆に満ちた心が、日ごとに、神の愛の主権に服する時、今も建設されつつあるのである。しかし、神の栄光のみ国の建設は、キリストがこの世界に再臨される時まで完成を見ることはない。(祝福の山 135)

キリストがご自身で来られるまでは、神の民はみ国を受けることができないのである。救い主は言われた。「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、……そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい』」(マタイ 25:31～34)。……人の子が来るときに、死者はよみがえらせられて朽ちないものとなり、生きている者は変えられるということをおわれわれは知った。この大変化によって、彼らはみ国を受ける準備ができるのである。……人間の現在の状態は、死ぬべきものであり、朽ちるものである。しかし、神の国は、朽ちず、永遠に続くものである。それゆえに人間は、現在の状態のままでは、神のみ国に入ることはできない。しかし、イエスが来られるときに、彼はご自分の民に不死をお与えになる。そして、これまではただ相続人でしかなかった彼らに、み国を継ぐようにと言われるのである。(各時代の争闘下巻 8)

もし「あなたがたはキリストのもの」であるなら、「すべては、あなたがたのものなのである」(コリント第一 3:23, 21)。しかし、あなたは、相続財産の支配権をまだ与えられていない子供のようなものである。神は、サタンがその悪だくみによって、エデンの最初の夫婦を欺いたようにあなたを欺くことがないように、あなたにあなたの貴重な所有物をおゆだねにならない。キリストは、それをあなたのために略奪者の手のとどかないところに安全に保持される。(祝福の山 138, 139)

なぜ今ではないのか

「それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。」(エレミヤ 31:34)

「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう」とイエスは言われた(マタイ 24:14)。み国は、恵みのよきおとずれが全地に伝えられるまで出現しないのである。それだから、わたしたちが自分を神にささげ、他の人々を神のためにかち取る時、わたしたちはみ国の出現を早めるのである。自己を神の奉仕にささげ……る者だけが、心から「御国がきますように」と祈るのである。

「みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」という祈りは、この地上の悪の支配が終わり、罪が永久に滅ぼされ、義のみ国が樹立されるようにという祈りである。その時、地には、天におけるように、「善に対するあらゆる願い」が成就される(テサロニケ第二 1:11)。(祝福の山 136, 137)

キリストは、勝利が完全になるまでは満足されない。「彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足」されるのである(イザヤ書 53:11)。地のすべての国民は、キリストの恩恵の福音を聞くであろう。全部の者がキリストの恩恵を受け入れるわけではないが、「子々、孫々、主に仕え、人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え」るのである(詩篇 22:30)。「国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられ」、「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちる」(ダニエル書 7:27, イザヤ書 11:9)。「こうして、人々は西の方から主の名を恐れ、日の出る方からその栄光を恐れる」(イザヤ書 59:19)。

「よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって『あなたの神は王となられた』と言う者の足は山の上にあつて、なんと美しいことだろう。……荒れすたれた所よ、声を放って共に歌え。主はその民を慰め、……主はその聖なるかいなを、もろもろの国びとの前にあらわされた。地のすべての果は、われわれの神の救いを見る」(イザヤ書 52:7～10)。(各時代の希望下巻 378)

永遠を見つめる

「身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救（あがない）が近づいているのだから。」（ルカ 21:28）

教会が世に従うことをやめて、キリストの義の衣を着る時に、教会の前には、輝かしい栄光の日の夜明けがある。教会への神の約束は、永遠に堅く立つであろう。……真理は、それをさげすみ拒む人たちを通り過ぎて、勝利する。ときには一見妨害されたように見えても、真理の前進は決して阻止されたことがない。……こうして聖なる力を備えた真理は、どんな堅固なとりでもつきぬけ、どんな障害にも勝利するのである。

骨折りと犠牲のご生涯の間、神のみ子を支えたものは何であったか。キリストはご自分の魂の苦しみの結果をご覧になって、満足された。キリストは、永遠をご覧になり、ご自身の屈辱を通してゆるしと永遠のいのちを受けた人々の幸福をご覧になった。キリストの耳は、あがなわれた者たちの歡喜の叫びを聞きとられた。主はあがなわれた人々が、モーセと小羊の歌をうたっているのをお聞きになった。

われわれは、未来の、祝福された天の幻を持つことができる。聖書には未来の栄光の幻、神のみ手によって描かれた光景が示されている。そしてこれらは、神の教会にとって大事なものである。信仰によってわれわれは、永遠の都の入口に立ち、この世の生活においてキリストと協力し、キリストのために苦しむことを名誉とみなしてきた人々に与えられる、恵み深い歓迎のことばを聞くのである。「わたしの父に祝福された人たちよ」ということばを聞くとき、彼らはあがない主の足もとに冠を脱ぎ捨てて、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい。……御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」と叫ぶ（マタイ 25:34、黙示録 5:12, 13）。

あがなわれた者たちは、自分たちを救い主に導いてくれた人たちにそこであいさつをし、全員が一つとなって、人間に神のような永遠のいのちを与えるために、ご自分のいのちを犠牲にされたかたを讚美する。闘争は終わる。艱難も争いも終わる。あがなわれた者たちが、ほふられて、勝利の征服者として再び生き返られた小羊こそすばらしい、という喜びの歌をうたいたすと、勝利の歌が全天に満ちる。（患難から栄光へ下巻 310, 311）

だれがふさわしいか

「知恵ある者は、誉を得る」(箴言 3:35)

神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求される標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。キリストご自身はこう言われた。「御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は命にあずかることがない」(ヨハネ 3:36)。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ 7:21)。そして、主は、黙示録のなかで言われる。「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおつて都にはいるために、自分の着物を洗う(このお方の戒めを行う)者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14)。人間の最後の救いについて、み言葉の中にあらわされている選びとは、これだけである。

おそれおのいて自分の救いを達成しようとする者はみな選ばれている。武器をまとして、信仰のよき戦いをする者は選ばれている。目をさまして祈り、み言葉を研究し、誘惑からのがれる者は選ばれている。常に信仰を持ち、神のみ口から出るすべてのことばに従おうとする者は選ばれている。贖いに必要な備えはすべての者に無代で与えられている。贖いの成果は、条件に応じる者に与えられる。(人類のあけぼの上巻 227)

サタンは、神の語られたことを人々に曲解させ、心をくもらせ、理解力を暗くして、彼らを罪に陥れようと絶えず働きかけている。であるから、主は、この点を明確にし、だれもご自分の要求をまちがえることがないように、明らかにしておられるのである。神は、サタンが、神の民に残忍で欺瞞的な力を及ぼさないように、絶えず彼らをご自分の保護の下に引き寄せようとしておられる。神はおそれ多くもご自身の声で彼らに語り、ご自身の手で生きたみ言葉をお書きになった。生命力が満ちて、真理の光を放っているこれらの祝福の言葉は、完全な指針として人に与えられているのである。……

聖書のどの章どの節も、神からの人類への伝達である。……われわれがそれを学んで従うときに、イスラエル人が、昼は雲の柱、夜は火の柱で導かれたように、それは神の民を導くのである。(人類のあけぼの下巻 127, 128)

天使と共に住むために準備する

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

わたしたちが今日持っている教理は現代の真理であり、わたしたちが審判に近づいているのは……疑いもない。わたしたちは、聖天使の随行団に付き添われたお方にお会いし、このお方が忠実な者、義にかなった者に不死の仕上げの一触れを与えるために、天の雲に乗ってこられるのを出迎えるために準備している。……

わたしたちはさまざまな能力をもって真理を奉じている。そしてわたしたちが真理の感化の許に来るとき、真理は、栄光の王国と天使たちの交わりにふさわしい道徳心を与えるために必要な働きを、わたしたちのために成し遂げる。わたしたちは今、神の仕事場にいる。わたしたちの多くは石切り場から切り出された粗い石である。しかし、わたしたちが神の真理をしっかりとつかむとき、その感化力はわたしたちに作用する。それはわたしたちを高め、どのような性質であろうとすべての不完全さと罪をわたしたちから取り除く。このようにしてわたしたちは麗しい王にお会いし、ついには栄光の王国にいる純潔な者と聖天使たちと一つになる準備をする。この働きがわたしたちのために成し遂げられるのはこの地上であり、わたしたちの体と精神が不死のためにふさわしくなるべきなのもここである。

わたしたちは品性の義と純潔、恵みのうちに成長するのに反対する世界にいる。わたしたちが見るところはどこでも、墮落と汚れ、欠陥と罪を見る。それではわたしたちは不死を受ける直前にこの地上で着手すべき働きとは何であろうか。それは、わたしたちがこの終わりの時代においてわたしたちの周りにあふれている墮落のただ中でしみなく立つことができるように、自分たちの体を聖なるものとし、精神を純潔に保つことである。(教会への証 2 巻 355, 356)

光ははっきりと輝いているので、だれも無知でいる必要はない。偉大な神ご自身が人の教師であられるからである。……このお方は健康改革という大いなる主題が論じられ、社会全体の思いが、調べるために深く動かされるよう計画しておられる。なぜなら、男女は、自分たちの罪深く、健康を破壊し、頭脳の力を弱める習慣をもってしては、聖なる真理を識別することは不可能だからであるが、この真理を通して、彼らは聖化され、精練され、高められ、栄光の王国で聖天使たちの社会に適合しなければならないのである。(教会への証 3 巻 162)

いま勝利の歌を学ぶ

「主にむかってわたしは歌おう、彼は輝かしくも勝ちを得られた。」(出エジプト 15:1)

この歌と、この歌が記念する大いなる解放は、ヘブル人の心にいつまでも消えない印象を与えた。この歌は、代々にわたり、イスラエルの預言者や歌人たちによってくり返し歌われ、主は、彼によりたのむ者の力であり、救いであることをあかしされた。この歌は、ユダヤ民族だけのものではない。それは義の敵がすべて滅び、神のイスラエルが最後に勝利をおさめる未来をさし示している。パトモスの預言者は、白い衣をまとった多くの人々が敵に「うち勝」ち「神の立琴を手にして」、「火のまじったガラスの海」のそばに立っているのを見た。「彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌つ」た(黙示録 15:2, 3)。

「主よ、栄光をわれらにではなく、われらにではなく、あなたのいつくしみと、まこととのゆえに、ただ、み名にのみ帰してください」(詩篇 115:1)。イスラエルの救いの歌にみなぎっていたのはこのような精神であった。この精神が神を愛し、恐れるすべての人々の心の中になければならない。神は、われわれの魂を罪の束縛から解放することによって、紅海でヘブル人にお与えになったものよりはるかに大いなる解放をもたらしてくださるのである。……われわれが神のみ手から受ける日ごとの祝福と、なにものにもましてわれわれに幸福と、天国とを得られるようにして下さったイエスの死は、われわれの絶えまない感謝の主題でなければならない。神は、われわれをご自身に結びつけ、神のたいせつな宝物として下さり、なんと大きなあわれみと、たぐいない愛をわれわれ失われた罪人に示されたことであろう。われわれが神の子とよばれるために、なんとという大きな犠牲が贖い主によって払われたことであろう。われわれは大いなる贖罪の計画の中で、われわれに与えられる祝福に満ちた望みを思って神をたたえなければならない。われわれは、天の遺産と神の豊かな約束が与えられていることを考えて、神をたたえなければならない。イエスがわれわれのために生きてとりなしをして下さることをたたえなければならない。……

天の全住民は一つになって神を賛美している。われわれが彼らの輝く列につらなるときにそれを歌えるように、今、天使の歌を学ぼう。詩篇記者と共に言おう。「わたしは生けるかぎり主をほめたたえ、ながらえる間は、わが神をほめうたおう」(詩篇 146:2)。「神よ、民らにあなたをほめたたえさせ、もろもろの民にあなたをほめたたえさせてください」(詩篇 67:5)。(人類のあけぼの上巻 332, 333)

わたしたちが待つときに

「腰に帯をしめ、あかりをともしないさい。主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけてあげようと待っている人のようにしていなさい。」(ルカ 12:35, 36)

今はわたしたちの主の来臨のための備えをするべき時である。このお方にお会いする準備は一瞬のうちにはできない。厳粛な光景に先立って、熱心な働きと共に、不断の見張り、警戒がなくてはならない。このようにして神の子らはこのお方に栄光を帰す。人生のあわただしい光景のただ中で、励ましと信仰と希望の言葉を語っている彼らの声が聞こえる。彼らの持っているもの、彼らの存在すべてが主人であるお方の奉仕に捧げられる。……

キリストは、ご自分の王国のその日がいつ到来するかをわたしたちに教えておられる。このお方は全世界が改心するとは仰せにならないが、「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣傳えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」と仰せになる(マタイ 24:14)。世界に福音を伝えることによって、わたしたちは神の日の到来を早めることができる。キリストの教会が主の命じられたように任命された働きを成し遂げていたなら、全世界はこの前に警告を受けており、主イエスは力と大いなる栄光のうちに地上に来ておられたであろうに。

生きた力がキリスト再臨のメッセージに伴わなければならない。わたしたちは、多くの魂が主の再臨の祝福された希望へと改心するのを見るまで、安んじてはならない。使徒の時代に彼らが担ったメッセージは真の働きをなし、魂を偶像から生きた神への奉仕へと向き直らせた。今日なされるべき働きはまったく同様に現実であり、真理はまったく同様に真理である。ただ一つ、主の来臨がもっと近づいているのであるから、わたしたちははるかにもっと熱心にメッセージを伝えなければならない。今の時代のためのメッセージは、明確で単純で、最も深い重要性をもっている。わたしたちはそれを信じている男女として行動しなければならない。待ち、見張り、働き、祈り、世に警告すること、これがわたしたちの働きである。(ビュー・アソド・ハルド 1913年11月13日)

わたしは最近、夜中にわたしの前を通り過ぎた光景に深く印象づけられた。多くの場所で大いなる運動—リバイバル・再生の働き—があるように見えた。わたしたちの民は神の召しに応えて、列をなして進んでいた。兄弟たちよ、主はわたしたちに語っておられる。わたしたちはこのお方の召しに注意を払わないのであろうか。わたしたちは自分の明かりを整え、自分たちの主が来られるのを期待する者として行動しないのであろうか。(牧師への証 515)

「家路についている！」

「そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちがよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』」(マタイ 25:34)

キリストの来臨はわたしたちがはじめに信じた時よりも近づいている。大争闘はその終わりに近づいている。神の審判が地に起こっている。彼らは、「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」と言い、厳粛な警告のうちに語る(マタイ 24:44)。……

わたしたちは地上歴史の終わりに生きている。預言はすみやかに成就しており、猶予の時間はすみやかに過ぎ去っている。わたしたちには浪費する時間は一瞬たりとも一ない。油断して眠っているところを見つけられないようにしましょう。だれも心の中で、あるいは自分の働きのなかで、「自分の主人は帰りがおそい」と言わないようにしましょう(マタイ 24:48)。キリストがまもなく帰ってこられるというメッセージが、熱心な警告の言葉のうちに響き渡るようにしなさい。……

主はまもなく来られるのだから、わたしたちは平安のうちにこのお方にお会いする準備ができていなければならない。わたしたちの周りにいる人々に光を分け与えるために力を尽くしてすべてを行うように決心しよう。わたしたちは悲しむのではなく、快活で、いつもわたしたちの前に主イエスにいていただくべきである。このお方はまもなく来られるのだから、わたしたちは準備して、このお方の現われるのを待っていないなければならない。ああ、このお方にお会いし、このお方の贖われた者として迎えられるとはなんと光栄あることであろうか! 長らくわたしたちは待ってきたが、わたしたちの希望がくすむようなことがあってはならない。もしわたしたちが王であるお方をその麗しさのうちに見ることができさえすれば、わたしたちは永遠に祝福されるのである。わたしはあたかも大声で「家路についている!」と叫ばずにはいられないように感じる。わたしたちは、キリストが、ご自分の贖われた者たちを彼らの永遠の住居に連れて行くために、力と大いなる栄光のうちに来られるその時へと近づいている。……

長い間、わたしたちは自分たちの救い主が帰ってこられるのを待った。しかしそれにもかかわらず約束は確かである。まもなくわたしたちは約束された家郷にいる。そこでイエスは、神の御座から流れている生ける川のほとりにわたしたちを導き、わたしたちの品性を完成なさるために、ご自分がこの地上でわたしたちにもたらされた暗いみ摂理を説明してくださる。そこでわたしたちは回復されたエデンの美しさをくもりのない視力で見ると見る。贖い主がわたしたちの頭においてくださった冠をそのお方の足元に投げ出し、自分の金の立琴を手にとって、わたしたちは御座に座っています方への讚美で全天を満たす。(教会への証 8 巻 252 ~ 254)

なんという報い!

「もしある人の……仕事そのまま残れば、その人は報酬を受ける。」(コリント第一 3:14)

忠実な働き人が神と小羊の御座の周りに集まるとき、与えられる報いは栄光に満ちたものである。ヨハネが死すべき人間として神の栄光を見たとき、彼は死んだ者のように倒れた。彼はその光景に耐えることができなかった。しかし、神の子らが不死をまとったとき、彼らは、「そのまことの御姿を見る」のである(ヨハネ第一 3:2)。彼らは愛されたお方のうちに受け入れられて、御座の前に立つ。彼らの罪はすべて除去されており、彼らの不義は取り去られている。いま彼らは神のみ座のくもりのない栄光を見ることができる。彼らはキリストの苦しみに共にあずかり、贖いの計画においてこのお方と共に集めた共労者であった。そして、彼らは魂が神の王国へ救われる喜びにあずかり、そこで永遠にわたって神を賛美するのである。……

その日には、贖われた者たちは御父と御子の栄光のうちに輝き出る。御使たちは自分たちの金の立琴をかんで、王とその戦利品である者たちを歓迎する。……勝利の歌が鳴り響き、全天を満す。キリストは勝利された。このお方は、ご自分の贖われた者たち、すなわち、このお方の苦難と犠牲の使命が無駄ではなかったという証人たちを伴って、天の宮へ入られる。……

地上の旅人たちには家がある。義人のために衣があり、また栄光の冠と勝利のしゅろの葉がある。この世における神のみ摂理の中でわたしたちを困惑させたすべてのことが、明白にされる。理解するのが難しかったことが、そのときわかるようになる。恵みの奥義がわたしたちの前に開かれる。わたしたちの有限な思いでは混乱と破られた約束にしか見えなかったところに、最も完全で美しい調和を認めるのである。わたしたちは無限の愛が、もつとも厳しいと思えた経験を命じられたことを知るようになる。わたしたちが万事をわたしたちの益となるようにして下さるお方の優しい保護を悟るとき、言いつくせない喜びと満ちみちた栄光をもって歓喜するのである。(教会への証 9巻 285, 286)

わたしは天の雲に乗って来られるキリストの来臨のために準備するよう、あなたに嘆願する。……キリストがすべて信じる者たちの間で驚嘆されるために来られるとき、あなたが平安のうちにこのお方にお会いする人々の中にいることができるように、裁きのために準備しなさい。(同上 285)

キリストの栄光に満ちた出現

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。」(マタイ 25:31)

天から神のみ声が聞こえて、イエスのこられる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられる。どんな雷鳴も及ばぬとどろきをもって、神のみ言葉が地上になりひびく。神のイスラエルは、耳を傾け、目を上方に注いで立っている。彼らの顔は神の栄光に照らされ……ている。

まもなく、東のほうに、人の手の半分くらいの大きさの小さい黒雲が現われる。……神の民は、これが人の子のしるしであることを知っている。彼らは、厳粛な沈黙のうちに、その雲が地上に近づくのを見つめる。それは次第に明るさと輝かしさを増し、ついには大きな白い雲となって、下のほうには焼き尽くす火のような栄光が輝き、上のほうには契約のにじがかかっている。イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。……。数えることができないほどの聖天使の群れが、天の聖歌を歌いながら付き従う。大空は、「万の幾万倍、千の幾千倍」もの、輝く天使たちで満たされたように見える(黙示録 5:11)。この光景は、人間のどんな筆によっても描くことができない。……

義人たちは、震えながら、「だれが立つことができようか」と叫ぶ(黙示録 6:17)。天使たちの歌はやみ、恐ろしい沈黙のひとときがくる。すると、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」というイエスのみ声が聞こえる(コリント第二 12:9)。義人たちの顔は輝き、どの人の心も喜びに満たされる。そして、天使たちは、前よりも調子を高めて歌い始め……る。

王の王は、燃える炎に包まれて、雲に乗って降りて来られる。天は巻物が巻かれるように消えていき、地は、王の王の前に 震え、すべての山と島とは、その場所から移されてしまう。……悪人たちは、自分たちが軽べつし拒否してきたおかたの顔を見るよりは、山々の岩石の下に葬られることを願う。……キリストとキリストの忠実な民とを殺そうとした人々は、今、その人たちの上に栄光が宿っているのを見る。彼らは、自分たちが恐怖に襲われている最中に、聖徒たちが喜ばしい声で、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」と叫ぶのを聞く(イザヤ書 25:9)。(各時代の大争闘下巻 418～423)

死に対する勝利

「すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあつて死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。」(テサロニケ第一 4:16, 17)

神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こす。……「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」と叫びながら、彼らは死の獄屋から、不死の栄光をまもって現われる(コリント第一 15:55)。……

生きていた義人たちは、「またたく間に、一瞬にして」変えられる。彼らは、神のみ声によって栄化された。今や彼らは不死の者とされて、よみがえった聖徒たちとともに、空中において主に会うために引き上げられる。……

神の都に入る前に、救い主は、ご自分に従う者たちに、勝利の象徴を与え、王族のしるしを授けてくださる。……勝利者の頭には、イエスご自身が右の手で、栄光の冠をかぶらせてくださる。すべての者のために、その人の「新しい名」と「主に聖なる者」ということばが刻まれた冠がある(黙示録 2:17)。すべての者の手には、勝利者のしゅろの枝と輝く立琴とが授けられる。そして、指揮する天使たちが合図の音をかき鳴らすと、すべての者の手はたくみに立琴をかなで、すばらしい音楽の美しい調べがわき起こる。すべての者の心は、言葉に言いあらわすことのできない感激に心がふるえ、すべての声は、……感謝の讃美をささげる。

贖われた群衆の前には、聖都がある。イエスは、真珠の門を広くあけられる。そして、真理を守ってきた諸国の民がその中へ入る。……その時、人間の耳が今まで聞いたどんな音楽よりも豊かな美しいあの声が、「あなたがたのたたかいは終わった。」「わたしの父に 祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されているみ国を受けつぎなさい」と言われる(マタイ 25:34)。

ここで、「あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」と弟子たちのために祈られた救い主の祈りが成就する(ヨハネ 17:24)。キリストは、ご自分の血によって贖われた者たちを、「その栄光のまえに 傷なき者として、喜びのうちに」(ユダ 24) 父の前に示……される。ああ、なんと驚嘆すべき贖いの愛であろう。無限なるおかたであられる天父が、贖われた者たちをごらんになって、……そこに神のみかたちをごらんになる時の、その喜びはどんなであろう。(各時代の争闘下巻 423 ~ 427)

喜びは永遠に

「主にあがなわれた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る。」
(イザヤ 35:10)

キリストが最初にこの地上に来られたとき、このお方は低く無名のうちに来られた。そしてこのお方の地上でのご生涯は苦しみと貧困の生涯であった。……このお方の再臨のときには、すべてが違っている。人々は悪党たちに囲まれた囚人としてこのお方を見るのではなく、天の王として見るのである。キリストはご自身の栄光のうちに、ご自分の御父の栄光のうちに、そして聖天使たちの栄光のうちに来られる。千々万々の天使たち、すぐれた麗しさと栄光をもった、美しく勝利に満ちた神の子らがこのお方に随行する。いばらの冠の代わりに、このお方は栄光の冠一冠の中にある冠一をかぶっておられる。古い紫の衣の代わりに、このお方はこの上なく白く「それほどに白くすることはできないくらい」白い衣をまっとうおられる(マルコ 9:3)。そしてこのお方の着物にも、そのもにも、「王の王、主の主」という名がしるされている。……

このお方に忠実に従う者にとって、キリストは日ごとの連れ合いであり、親しい友であられた。彼らは神との緊密な絶えざる交わりのうちに生きてきた。彼らの上に主の栄光が上った。彼らのうちにイエス・キリストの顔にある神の栄光の知識の光が反映してきた。いま彼らは大能の王の輝きと栄光のくもりのない光線の中で喜んでいる。彼らは天の交わりのために準備ができています。なぜなら、彼らは自分たちの心のうちに天をもっているからである。

頭をあげて、自分たちの上に輝く義の太陽の明るい光線をもって、自分たちの贖いが近いことを喜んで、彼らは花婿なるお方を迎えに出ていく。……

あと少しすれば、わたしたちは王をその麗しさのうちに見るようになる。あと少しすれば、このお方はわたしたちの目から涙を拭い去って下さる。……そのとき数え切れない声が、次の歌をうたう、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいま」す(黙示録 21:3)。……

「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい」(ペテロ第二 3:14)。(ビュー・アンド・ワールド 1913年11月13日)

ついにふるさとへ!

「しかし、聖書に書いてあるとおり、『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである。」(コリント第一 2:9)

この地上の美しさに心が魅せられるとき、罪にも死にもむしばまれないきたるべき世界のことを考えてみよう。そこには、もはやのろいのかげはみられない。なお、救われた者の家庭を考えてみよう。それは、どんなにすばらしい想像もとうてい描き出すことができないほどのりっぱなものであることをおぼえよう。神は自然界を美しく飾られるが、それでも、わたしたちは、神の栄光のほのかな光を見ているにすぎないのである。(キリストへの道 117)

やがて、天の門が神の子らのために開かれ、栄光の王のみ口より「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:34)という祝福の言葉がたえなる音楽のごとくにひびいてくる。こうして、あがなわれた者は、イエスが彼らのために備えられた住居に迎えられるのである。(キリストへの道 176, 177)

わたしは、イエスが、救われた人々の群れを、都の門に導かれるのを見た。イエスは門に手をかけて、そのきらめく蝶番のついた扉をさっと開き、真理を守った諸国民に、中に入るように命じられた。都の中には目を楽しませるあらゆるものがあつた。彼らは至る所に豊かな栄光を見た。それからイエスは、贖われた聖徒たちをごらんになった。彼らの顔は栄光に輝いていた。イエスは、彼らの上にじつとやさしい目をそそいで、豊かな美しい声でこう言われた、「わたしは、自分の魂の辛苦を見ることができて満足だ。この豊かな栄光は永久にあなた方のものだ。あなた方の不幸は終わった。もはや死もなく悲しみ嘆きもなく、また苦しみもないのだ」。……

ことばというものはあまりに貧弱で、天国の光景を描写することができない。天国の光景がわたしの前に現れるにつれて、わたしはただ驚嘆するよりほかはない。そのすぐれた壮麗さと、そのすばらしい栄光に心を奪われたわたしは、筆を投げて叫んだ。「ああ、なんとという愛!なんとという驚くべき愛ぞ」と。どんなことばでほめたたえてみても、天の栄光と比類のない救い主の愛の深さを描写することはできない。(初代文集 464～466)

回復されたエデン

『勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう』。(黙示録 2:7)

エデンの園は、人間がその楽しい道から追われた後も長く地上に残っていた。その入り口は警護の天使が守っているだけで、墮落した人類は、罪の入らなかったときの住居を長い間かいま見することを許されていた。ケルビムが守っていた楽園の門には、神の栄光があらわれていた。アダムとその子らは、ここに来て神を礼拝した。かつて、神の律法を犯したためにエデンから追放された彼らは、ここで神の律法に従う誓いを新たにした。悪のうしおが全地にみなぎり、人々の悪行の結果、世界が洪水によって滅ぼされることになったときに、エデンの園を造られたみ手は、それを地上から取り去られた。しかし万物が回復されて、「新しい天と新しい地」が出現するとき(黙示録 21:1)、それは、はじめのときよりももっと輝かしく飾られて回復されるのである。

そのとき、神の戒めを守ってきたものは、いのちの木の下で、不死の生気を呼吸する。そして、罪のない世界の住民は、永遠にわたって、この喜ばしい楽園に、罪にのろわれなかった完全な神の創造のみわざの見本を見るときにも人間が創造主の栄光に満ちた計画を成就していたならば、全世界がどのようになったかという見本を見るのである。(人類のあけぼの上巻 52)

アダムに最初の主権が返されたのである。彼は、喜びのあまり我を忘れて、かつて自分の楽しみであった木々、まだ罪を犯さず喜びに満ちていた時に、自分で実を集めたその木々をながめる。彼は、自分の手で整えたぶどうの木、かつて愛し育てた花々を見る。彼の心は、この光景が現実であることを悟る。これが回復されたエデンであること……を彼は悟るのである。(各時代の争闘下巻 428)

贖われた者は、長い間失われていたエデンのいのちの木に再び近づくことを許され、最初の栄光に輝く人類の完全な背丈に「成長する」のである(マラキ書 4:2 英語訳)。罪ののろいの最後の痕跡が取り除かれ、キリストに忠実に仕える者たちは、知的にも、霊的にも、身体的にも、主の完全な姿を反映して、「われらの神、主のうるわしさ」を着て現われる。ああ、なんとというすばらしい贖いであろう。これこそ長い間、語り、熱望し、熱心な期待をもって瞑想してきたが、しかし決して十分には理解できなかったことであった。(各時代の争闘下巻 424)

すべての苦しみは終わった

〔そして神は〕人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである。』（黙示録 21:4）

痛みは天の大气の中で存在することができない。贖われた者のふるさとは涙も葬列も喪章もない。「そこに住む者のうちには、『わたしは病気だ』と言う者はなく、そこに住む民はその罪がゆるされる」（イザヤ 33:24）。一つの幸福の豊かな潮が永遠にわたって流れ、深まっていく。（教会への証 9 巻 286）

聖徒たちが待ちこがれていたところの、「神につける者が全くあがなわれ」る時がきた（エペソ 1:14）。もともと人にその王国として与えられたのに、サタンの手に売り渡され、長い間強力な敵に占領されてきた地が、大いなる贖いの計画によって再びもどされたのである。罪によって失われたいつさいのものは回復された。……地上が贖われた者たちの永遠のすみかとなる時、地を創造された時の神の最初の目的が達成される。

そこにおいて、「荒野と、かわいた地とは楽しみ、さばくは喜びて花咲き、」「いとすぎは、いばらに代って生え、ミルトスの木は、おどろに代って生える」（イザヤ書 35:1, 55:13）。「おおかみは小羊と共にやどり、ひようは子やぎと共に伏し、……小さいわらべに導かれ、」「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなく、やぶることがない」と神は言われる（イザヤ書 11:6, 9）。（各時代の大争闘下巻 462～464）

思い出させるものがただ一つある。われわれの救い主は、永遠に十字架の傷跡をとどめられるのである。主の傷ついたみ頭に、その脇腹に、その手と足に、罪の残酷なしわざの唯一の跡がある。……

大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いつさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。（各時代の争闘下巻 462～467）

新たにされたエデンの生活

「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。わが民の命は、木の命のようになり、わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむからである。」(イザヤ 65:21, 22)

天には仕事がある。贖われた者たちの身分は、怠惰な休憩の身分ではない。(パブル・コメンタリ [E. G. 初版] 3巻 1164)

贖われた人々は新しい地において、最初アダムとエバに幸福をもたらした仕事と楽しみに従事する。彼らはエデンの生活をする。それは楽園と畑の生活である。……

そこではあらゆる能力が発達し、あらゆる才能が増し加わる。どんな大事業も遂行され、どんなに高遠な抱負も達成され、どんなに遠大な目的も実現される。それでもなお、さらに越えるべき新しい高さ、感嘆すべき新しい驚異、理解しなければならぬ新しい真理、知・徳・体の能力を要する新しい目的が現れる。(国と指導者下巻 333)

「その僕たちは彼を礼拝し」(黙示録 22:3) とある。地上の生活は天上の生活の始まりである。地上の教育は天の原則の初歩である。この世の人生の働きは来世の人生の働きのための訓練である。品性においても、聖なる奉仕においても、現在のわれわれの姿は、来世におけるわれわれの姿をうつした確かな影である。

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり」(マタイ 20:28)。この世におけるキリストの働きは天におけるキリストの働きで、われわれがこの世においてキリストと共に働くときに、きたるべき世にキリストと共に働くいっそう大いなる能力といっそう広い特権が報賞として与えられる。「『あなたがたはわが証人である』と主は言われる」(イザヤ 43:12)。これもまた、永遠にわれわれのものである。……

罪のために制限されてはいるものの、この地上の人生における最大の歓喜と最高の教育は奉仕の中にある。罪のある人間としての制限に拘束されない来世においても、奉仕の中に最大の歓喜と最高の教育が見いだされる。それはあかしをたてることであり、あかしをたてるとともに「この奥義が、いかに栄光に富んだものであるか」(コロサイ 1:27) を新しく学ぶのである。「この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」(コロサイ 1:27) と言われている。(教育 359, 360)

永遠の幸福

「あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。」(詩篇 16:11)

伝道中もイエスは多くの時間を屋外で過ごされた。……その教えの多くは戸外でなされた。(ミスト・オブ・ヒーリング 30)

聖書の中では、救われた者の嗣業が「ふるさと」と呼ばれている(ヘブル 11:14～16 参照)。そこでは天の大牧者イエスが、ご自分の群れを生ける水の源に連れて行ってくださる。いのちの木は月ごとにその実を結び、その葉は万民のために用いられる。水晶のように透きとおった川が永遠に流れ、そのそばにはゆれ動く木々が、主に贖われた者たちのために備えられた道の上に影を投じている。広々とひろがった平野の果ては、美しい丘となって盛りあがり、神の山々が高くそびえ立っている。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、久しい年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、そのすまいを見いだすのである。(各時代の争闘下巻 463)

聖書はわたしたちの視野に天の無尽蔵の富と不死の宝を提示する。人間の最も強い衝動は、自分自身の幸福を求めるようにせきたてるが、聖書はこの願望を認め、真の幸福を得ようとする努力において、全天が人と一つになっていることをわたしたちに示す。それはキリストの平和がわたしたちに与えられる条件を明らかにしている。それは、涙も欠乏も知ることのない、とこしえの幸福と日光のふるさとを描写している。(今日のわたしの生涯 160)

なんでも地上のふるさとにある美しいものを見るとき、自分たちの天上のふるさとの水晶の川と緑の野、ゆれ動く木々と生ける泉、輝く都と白い衣の歌い手たち一どのような芸術家も描くことができず、死すべき人間の言葉では描写できない美しい世界—を思い起こそう。……

永遠にこの祝福された者のふるさとに住むこと、魂に、体に、霊に、罪とのろいの暗い跡ではなく、わたしたちの創造主の完全なすがたを帯び、尽きることのない年月を通じて知恵と知識と聖潔に前進し、常に新しい思想の分野を探求し、常に新しい不思議とあたらしい栄光を見出し、常に知り、楽しみ、愛する能力に成長し、なおその先に無限の喜びと愛と知恵があることを知る—これがクリスチャンの希望が指し示している目的地である。(両親、教師、生徒への勧告 55)

わたしの守護天使と共に

「あなたがたは、これらの小さい者のひとりをも軽んじないように、気をつけなさい。あなたがたに言うが、彼らの御使たちは天にあって、天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰いでいるのである。」(マタイ 18:10)

永遠の光の中に神の摂理が明らかにされるまでは、われわれはどんなに天使たちに守られ助けられていたかを知ることができない。天使たちは人間世界のできごとに積極的な役割を果たしてきたのである。光り輝く衣をまとうて現われたり、旅びとの服装をした人間となって現われたのである。彼らは人の家庭でもてなしを受けたり、道に行き暮れた旅びとを案内したりしたのである。……

この世の為政者たちはしらないが、天使たちが彼らの会議に発言したことは幾度もある。人間の目に彼らの姿が見え、人間の耳に彼らの訴えが聞こえたのである。会議室や法廷で、天の使者たちは迫害と圧制を受けている者たちのために弁護したのである。彼らは神の子らに災いと苦難をもたらすような目的をくじき、悪をとどめたのである。天の学校では、こうしたすべてのことが、生徒たちに明らかにされるであろう。

あがなわれた者はだれでも、自分の一生における天使たちの奉仕を理解するであろう。生まれたときからわれわれを守ってくれた天使、われわれの歩みを見守り、危険の日にわれわれの頭上をおおってくれた天使、死の陰の谷にあってわれわれとともにいた天使、われわれの最後のいこいの場所に目をとめてくれた天使、よみがえりの朝まっさきに迎えてくれる天使—この天使と語らい、自分の一生における神の摂理と人類のためのあらゆる働きにおける天の協力について話を聞くことはどんなにすばらしいことであろう。(教育 356)

神のみ言である聖書さえ手にあれば、人は……自分の好きな友をえらび得るのである。この世にあって天のふんいきの中に住み、……いよいよ永遠の世界の門口に近づき、そしてついには開かれた門を通してそこにはいることができる。そこでは自分が見ず知らずの人間ではないことに気がつくであろう。自分にあいさつの言葉をかけてくれる声は、地上にあるとき、目には見えなかったけれども、友として交わった聖者たちの声であり、この世において聞きわけして愛することをおぼえた声である。神のみ言葉を通して、天との交わりの中に暮らしていた者は、天における交際にも心やすさを感じずるであろう。(教育 136, 137)

天の学校

「あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子ら(の平安)は大いに栄える。」
(イザヤ 54:13)

天は学校である。その研究の分野は宇宙であり、その教師は無限の神である。この学校の分校がエデンに設けられたのであった。救済の計画が成就されると、教育は再びエデンの学校にもどるのである。……

天地が造られたときにエデンに設けられた学校と、来世のエデンの学校との間には、人類の墮落と苦難、神の犠牲、死と罪に対する勝利など、この世の歴史の全範囲が横たわっている。エデンの最初の学校の事情がそのまま来世の学校にみられるとはかぎらない。そこには誘惑の機会を与える善悪の木はなく、誘惑者もいなければ、悪の可能性もない。どの人もみな悪の試練にうち勝った人ばかりで、もはや悪の力に動かされる者はひとりもない。……

新天新地においては、われわれの眼をくもらせていたヴェールが取り除かれる。顕微鏡でちらっとのぞいた美しい世界がまのあたりにながめられ、望遠鏡を通してはるか遠くに見えた天の栄光がまのあたりに仰がれる。全地は罪の傷あとを取り除かれて主なる神エホバの美しさにつつまれて現われる。そのとき、なんというすばらしい研究の分野がわれわれの眼前に開かれることであろう。そこで科学の学徒が創造の記録を読んでも悪の法則の名ごりはどこにもみあたらない。自然の声の音楽に耳をかたむけても、嘆きの音いろや悲しみの低音はきかれない。すべての被造物の中に一つの筆跡だけが目につき、広大な宇宙に神のみ名が大きく書かれているのが見えるだけで、地にも海にも空にも悪の面影は一つ残っていない。(教育 352～355)

この地上で最高の学識に到達しようと自分たちの特権を最大限に生かしてきた人々は、これらの価値ある修得知識を将来の生活へ持ち込む。彼らは朽ちないものを求め、獲得した。「目がまだ見ず、耳がまだ聞か」ない栄光を認める能力は、現世での能力の育成において到達した学識に比例する。(クリスチャン教育の基礎 49)

キリストはなおもわたしたちの教師

「わが民はわが名を知るにいたる。その日には彼らはこの言葉を語る者がわたしであることを知る。(見よ) わたしはここにおる。」(イザヤ 52:6)

神のみ前に立ち帰った人類は、天地が造られた時と同じようにふたたび神から教えられる。(教育 354)

わたしたちは、そのとき自分たちの前に何が開かれるかについて、ほんのわずかでさえも考え及ばない。キリストと共にわたしたちは生ける水のほとりを歩む。キリストはわたしたちに自然の美しさと栄光を明らかになさる。このお方はご自分がわたしたちにとってどのようなお方か、またわたしたちがご自分にとってどういう者かを明らかになさる。わたしたちが有限であるがゆえに今は知ることのできない真理を、その時から知るようになる。(両親、教師、生徒への勧告 162)

来るべき世界においては、キリストが贖われた者たちを命の川のほとりへ導き、彼らに真理のすばらしい教訓をお教えになる。……彼らは巨匠のみ手が世界をその位置に保っていることを見る。彼らは野の花の色どりに、偉大な芸術家によって表された技能を眺め、すべての光線を放っておられる憐れみ深い御父のご目的を学ぶ。そして、聖天使たちと共に贖われた者たちは感謝の讃美の中で、感謝しない世界を愛される神の最上の愛を感謝する。(今日のわたしの生涯 361)

そこでは無限の広さと言いあらわし得ない価値を持った歴史が生徒の前に開かれるであろう。……罪の起源、破滅的な虚偽と不正な働き、まっすぐな道からそれることなく誤りを征服してきた真理—それらのすべての歴史が明らかにされるであろう。目に見える世界と目に見えない世界をささげっていたヴェールが取り除かれて、ふしぎに思われていた事がらが明らかにされるであろう。……

言いしれない喜びをもってわれわれは他世界の聖者たちの歓喜と知恵にあずかるのである。われわれは、聖者たちが神のみ手のわざを熟視して長い年月の間に得た宝にあずかるのである。そして永遠の年月がたつにつれて、ますます輝かしい啓示が与えつづけられるであろう。「わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越え(エペソ 3:20) るものが、永遠から永遠にわたって神の賜物として与えられるであろう。(教育 355 ~ 359)

地上の学校で学んだすべての正しい原則、すべての真理は、天の学校においてもまったく同様にわたしたちを前進させるのである。(両親、教師、生徒への勧告 208, 209)

わたしたちはここで永遠にわたって神と共に生きることができるようになる教育を受けなければならない。ここで始まった教育は、天において完成される。わたしたちはただ上級に進むにすぎない。(今日のわたしの生涯 361)

わたしたちのカリキュラム

「なぜなら、わたしたちの知るところは一部分である。……（しかし）全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。」（コリント第一 13:9, 10）

信仰によってわたしたちは将来を眺め、知性と、神性と結合する人間の能力、そして光の源なるお方と直接つながる魂のすべての力の成長という神のみ誓いをつかまなければならない。わたしたちは神のみ摂理において自分たちを困惑させたすべてのことがそのときには明らかにされることを喜ぶことができる。理解しがたかった事柄が、わかるようになる。（教会への証 5 巻 706）

無我の精神で働いてきた人々は、そこに自分たちのほねおりの結果を見てもあろう。あらゆる正しい原則と尊い行為の成果が見られるであろう。その幾らかはこの世においても見られる。しかし世界の最もうまい働きの結果は、この世においてはそれをなした本人にもほとんどわからないのである。おのれを忘れて、たゆまずに働いた結果がどれほど彼らの手の届かない知らない人々に及んでいることであろう。親も教師も最後の眠りにつくときに、自分の一生の働きはむなしかったように思われるかもしれない。彼らは、自分の忠実さによって開かれた祝福の泉から小やみなく水が流れ出ていることを知らない。ただ信仰を通してのみ、彼らは自分の教育した子供たちが人類同胞の祝福となり靈感となって、その影響が幾千回となくくりかえされることを知るのである。多くの働き人は力と希望と励ましの言葉、全地の人々の心に祝福を与える言葉を伝えるが、しかし世に名も知られないでひとりではねおったその結果は自分にはわからないのである。このように彼らは賜物を与え、重荷を負い、働きをなすのである。人は種をまくが、それは彼らが墓にはいってから祝福の収穫となって他の人に刈り取られるのである。彼らは木を植えるが、その実は他の人が食べるのである。彼らはこの世では、自分が良い働きを始めたことを心に思うだけで満足する。来世ではこうしたすべての働きとその結果が明らかにされるであろう。

無我の奉仕をするように神から与えられたあらゆる賜物について、天に記録がしるされている。多方面にわたるその記録を調べたり、われわれの努力によって高められとうとくされた人々について調べたり、それらの人々の経歴に真の原則の成果を見たりなど、こうしたことが天の学校の勉学と報賞の一つとなるであろう。（教育 357, 358）

宇宙を探検する

「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」(コリント第一 13:12)

「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている」(コリント第一 13:12)。われわれは神のみ姿が、自然界のみ業と人間に対する神の取り扱いとに反映しているのを、ちょうど鏡の中に見るように見ている。しかし、そこでは贖われた者たちは、「完全に知られているように、完全に知る」のである。……

神ご自身が魂にうえつけられた愛と同情とは、そこで最も真実な、最も美しいものとして発揮される。聖者たちとのきよい交わり、聖なる天使たち、及びその衣を小羊の血で洗って白くした各時代の忠実な者たちとの、むつまじい社会生活、「天と地の全家族」を一つに結びつける聖なるきずな—こうしたものが、贖われた者たちの幸福となる(エペソ 3:15 英語訳)。

ここでは、不死の者たちが、創造力の驚異、贖いの愛の奥義を、永遠に尽きない喜びをもって研究する。人を誘惑して神を忘れさせるような、残酷で欺瞞的な敵はもういない。……

宇宙のすべての宝は、贖われた神の民が研究するために開放される。死ぬべき人間という拘束をうけないで、彼らは、はるかに遠い他世界—人間の悲惨な光景を見て悲しみに身を震わせ、一人の魂が救われた知らせに歓喜の歌をひびかせた他世界—へ、疲れも覚えず飛行する。……くもりのない目をもって、彼らは創造の栄光を見つめる。すなわちもろもろの太陽や星や天体が、おのおのその定められた軌道を通して、神のみ座の周囲を運行しているのを見るのである。最も小さなものから最も大きなものに至るまで、すべてのものの上に、創造主のみ名が書きしるされ、すべてのものの中に神の力の富が示されている。

永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かですますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学べば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前に、贖いの富と、サタンとの大争闘における驚くべき功績とをお示しになると、贖われた者たちの心はいっそう熱烈な献身の念に燃え立ち、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴をかき鳴らし、万の幾万倍、千の幾千倍の声が一つになり、賛美の一大コーラスとなって盛りあがる。(各時代の争闘下巻 465～467)

エルサレムと共に喜ぶ

「また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。」(黙示録 21:2)

そこには栄化された新しい地の首都、新エルサレムがある。それは「王の手にある麗しい冠」「あなたの神の手にある王の冠」である(イザヤ書 62:3)。「その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった。」「諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの栄光をそこに携えて来る」(黙示録 21:11,24)。「わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ」と主は言われる(イザヤ書 65:19)。「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共にすみ、人は神の民となり、神自ら人と共にいま」す(黙示録 21:3)。

神の都には「夜は、もはやない。」休みの必要な者や、休みをほしいと思う者はだれもいない。神のみこころを行ない、そのみ名を賛美するのに、疲れることがない。いつも朝のすがすがしさを感じ、それは決して尽きることがない。「あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照らされるからである(黙示録 22:5)。太陽の光線の代わりに、目にまぶしくない光が与えられるが、その明るさは今の真昼の輝きよりもはるかにまさっている。神と小羊の栄光は、衰えることのない光をもって神の都に満ちあふれる。贖われた者たちは、太陽のない、しかもとこしえの昼の光の中を歩むのである。(各時代の大争闘下巻 464,465)

預言者は、罪と墓に勝利した人々が今、幸福そうに創造主のみ前にあつて、人間が最初に神と語ったのと同じように親しく神と話し合っているのを幻の中で見た。主は、彼らにお命じになる。「しかし、あなたがたはわたしの創造するものにより、とこしえに楽しみ、喜びを得よ。見よ、わたしはエルサレムを造って喜びとし、その民を楽しみとする。わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ。泣く声と叫ぶ声は再びその中に聞えることはない」(イザヤ書 65:18, 19)。……

贖われた人々が、罪とのろい……のあらゆる傷あとから解放されて、神の都に住んでいるのを見た預言者は、喜びにわれを忘れて叫ぶのである。「すべてエルサレムを愛する者よ、彼女と共に喜べ、彼女のゆえに楽しみ」(同 66:10)。(国と指導者下巻 330, 331)

永遠の安全

「主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる。」(ゼカリヤ 14:9)

贖罪の大いなる計画は、この世界を完全に神の恵みのもとに引きかえす。罪によって失われたすべてのものが回復される。人間ばかりでなく、地も贖われて、従順な者たちの永遠のすみかとなる。六千年のあいだ、サタンは地の所有を維持しようと努力してきた。だが、今や創造当初の神のみ旨が完成される。「いと高き者の聖徒が国を受け、永遠にその国を保って、世々かぎりなく続く」(ダニエル書 7:18)。

「日いずるところから日の入るところまで、主のみ名はほめたたえられる」(詩篇 113:3)。……「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり」、「すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立つ」(詩篇 119:89, 111:7, 8)。サタンが憎んで滅ぼそうとした聖なるおきては、罪のない宇宙であがめられる。(人類のあげぼの上巻 403)

キリストのあがないの働きによって神の統治の正しいことが証明される。全能者は愛の神として知らされる。サタンの非難は反ばくされ、その性格がばくろされる。反逆はふたたび起ることができない。罪は二度とこの宇宙にはいることができない。永遠にわたって、だれも背心の心配がない。愛の自己犠牲によって、天と地の住民は決してきれることのないきずなで創造主にむすびつけられる。

あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みが増えつつ充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。神のみ子が人のかたちをとり、栄光の王が生活し、苦難を受け、死なれたこの地上一ここに神が万物を新たにされる時、「神の幕屋が人とともにあり、神が人とともに住み、人は神の民となり、神みずから人とともにいま」すのである(黙示録 21:3)。そして永遠にわたって、あがなわれた者は、神の光の中を歩むとき、言いあらわしようのない神の賜物であられるインマヌエル—神われらと共にいます—について神を賛美するのである。(各時代の希望上巻 12, 13)

完全な補償

「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。」(ヘブル 10:35～37)

神の忍耐は驚くばかりである。罪人に恵み深い訴えがなされている間に、神の義もまた長く待っている。しかし、「義と正とはそのみくらの基である」(詩篇 97:2)……世の人びとは、大胆に神の律法を犯すようになった。神が長く忍んでおられるために、人びとは、神の権威をふみにじった。……けれども、彼らには越えられない一線が画されている。定められた限界に彼らが達するときが近づいてきた。今すでに、彼らは、神の忍耐の限界を越えようとしている。それは、神の恵みとあわれみの限界である。主は、み手を下してご自分の名誉を擁護し、神の民を救い出し、不義が増し加わるのをおさえられる。……

現在は、罪悪が世にあふれて、最後の大危機が近いことを告げている。神の律法が全世界的に無視され、神の民がその同胞からの圧迫と迫害を受けるようになるそのときに、主が介入なさるのである。……

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわち、あの書に名をされるされた者は皆救われます」(ダニエル書 12:1)。屋根裏のへや、あばらや、牢獄、処刑台、山々、荒野、地のほら穴、海の洞窟(どうくつ)の中から、キリストは、ご自分の子供たちをお集めになる。……神の子供たちは、地上の裁判官によっては極悪の犯罪人であると宣告された。しかし、「神はみずから、さばきぬし」になられるときが近い(詩篇 50:6)。そのときに地上の判決はくつがえされる。「その民のはずかしめを全地の上から除かれる」(イザヤ書 25:8)。すべての者に白い衣が与えられる。……

神の子供たちは、どのような苦難にあったにせよ、どのような損失を受けたにせよ、またどのような迫害をこうむったにせよ、あるいはまた、この世の生命を失ったにしても、そのとき、必ず十分な報いを受けるのである。彼らは、「御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている」(黙示録 22:4)。(キリストの実物教訓 158～161)

見あげよ！

「あなたがたの神は言われる、『慰めよ、わが民を慰めよ、ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはすでにゆるされ……た。』」（イザヤ 40:1,2）

神の教会は、悪との戦いにおける最も暗黒な時代に、主の永遠の計画に関する啓示が与えられた。神の民は現在の試練のかなたに将来の勝利を見ることが許された。その時になれば、戦いは終わり、贖われた者は約束の国を領有するのである。将来の栄光に関するこれらの幻、すなわち神の手が描いた光景は、各時代の争闘が急速に終わりを告げ、約束の祝福があふるるばかりに与えられようとしている今日、神の教会にとって貴重なものでなければならない。（国と指導者下巻 322）

まさにその成就の瀬戸際に立っているわれわれにとって、来たるべきこれらの諸事件の描写はなんと意義深く、また生々しい関心事でなければならないことであろう。これは、われわれの祖先がエデンを去って以来、神の子供たちが待望し、祈ってきたできごとなのである。

旅行く友よ、われわれはまだ地上の活動の影と混乱のさ中にいる。しかし、間もなく救い主は現れて、救いと休息をお与えになるのである。われわれは信仰をもって、神のみ手によって描かれた幸福な将来を眺めよう。世の罪のためになくなられたかたは、彼を信じるすべての者に、パラダイスの門を広く開けておられるのである。やがて戦いは終わり、勝利を取める。やがてわれわれは永遠の生命の希望の中心であられるかたにお目にかかる。そして、彼のみ前において、この世の試練と苦難は無に等しく思われる。「さきの事はおぼえられること」がない。「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けするため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。『もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。』」「しかし、イスラエルは……救われて、とこしえの救を得る。あなたがたは世々かぎりなく、恥を負わず、はずかしめを受けない」（イザヤ書 65:17、ヘブル 10:35～37、イザヤ書 45:17）。

見上げよ、見上げよ、絶えず信仰を増し加えよ。この信仰に導かれて、都の門を通して大いなる将来へと続く狭い道を行こう。それは贖われた者のために備えられた広く限らない輝かしい将来である。（国と指導者下巻 333, 334）

立証された神の正義

「主が言われる。わたしは生きている。すべてのひびは、わたしに対してかがみ、すべての舌は、神にさんびをささげる(神をみとめる)であろう。」(ローマ 14:11)

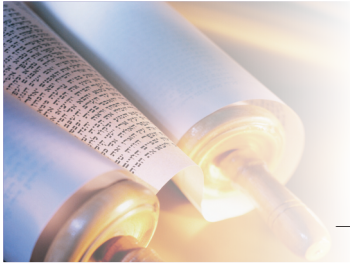
各時代にわたって大争闘がつづけられたのは何のためであったろうか。サタンが反逆の最初に存在を消滅されなかったのはなぜであろうか。それは悪に対する神の処置を通して、宇宙が神の正義を知り、悪が永遠の宣告をうけるためであった。救済の計画には、永遠にわたってきわめつくすことのできない高さや深さがあり、天使たちも見たいと願っている驚異がある。すべての被造物の中で、あがなわれた者だけが自己の経験を通して罪との実際の戦いを知っているのである。彼らはキリストと共に働き、天使たちすらあずかり得なかったキリストの苦難を共にしたのである。彼らは救済の学問について何も証言をたてないであろうか。彼らは他世界の聖者たちにとって価値のある何物も持っていないであろうか。……

「その宮で、すべてのものは呼ばわって言う、栄光と」(詩篇 29:9)。あがなわれた者たちは経験の歌をうたい、神の栄光を高らかに告げるであろう。「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり」ます(黙示録 15:3, 4)。(教育 359, 360)

魅せられたかのように、悪人たちは神のみ子の戴冠式をながめた。彼らは、神のみ子のみ手に、自分たちが今まで軽べつし違反してきた神の律法の板を持っておられるのを見る。……長年にわたって争われてきた真理と誤謬のすべての問題が、今明らかにされた。反逆の結果、すなわち神の律法を廃することの結果が、すべての知的被造物の目の前で明らかになった。神の統治と対照的なサタンの支配が行なわれた結果が、全宇宙の前に公開された。サタン自身の行為が、彼を罪に定めたのである。神の知恵と正義といつくしみとが、完全に擁護される。大争闘における神のすべての処置は、ご自分の民の永遠の幸福のために、そして神の創造されたすべての世界の幸福のために行なわれたものであることが明らかになる。……大争闘のいっさいの事実が明らかになると、全宇宙は、忠誠な者も反逆者も、異口同音に、「万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」と言明する(黙示録 15:3)。(各時代の争闘下巻 454～457)

研究 8

最後の出来事



個人と教会の清め

—Purification of Individual and Church—

今回は「個人と教会の清め」という主題を、み言葉と証を通して研究していきます。ダニエル 12:10 には、次のようにあります。「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。」

ダニエルに与えられたこのみ言葉は「終りの時」に関するものであり（ダニエル 12:9）、すなわち「ひと時とふた時と半時」の後、特に 2300 の夕と朝の終りである 1844 年以後に適用されるものであることがわかります。わたしたちが生きている現代、多くの人々があらゆる誤った偽りの教理によって戸惑っています。特にキリストを信じてバプテスマを受けるなら、「自分を清め」ることをしなくても、すでに救われたので安全だという考えが広く信じられています。「わたしたちも天国にはいるまでは、もはや自分は試練に負ける心配はないと感じたり、自信をもったりすることは安全ではない。救い主を受け入れた者は、たとえどんなにまじめな改心者であっても、わたしたちは救われている、と言ったり、また、感じたりするようにその人びとに教えてはならない。これは、誤解を招きやすい。もちろん、わたしたちは、すべての者に希望と信仰とをいただくように教えなければならない。しかし、みずからをキリストにささげ、キリストに受け入れられたことを知ってもなお、わたしたちは、誘惑の手の届かないところにいるわけではない。『多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう』と神のことばに与えられている（ダニエル 12:10）。試練を耐え忍ぶ人だけが、命の冠を受けるのである（ヤコブ 1:12）」（キリストの実物教訓 134）。

では、なぜ清めの働きが必要なのでしょう。「これはあなたがたが永久に守るべき定めである。すなわち、七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、何の仕事もしてはならない。この国に生まれた者も、あなたがたの

うちに宿っている寄留者も、そうしなければならない。この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」(レビ記 16:29、30)。

前述のみ言葉によれば、過去イスラエルの民は他のだれでもなく「主の前に」清められなければならなかったことがわかります。これを怠る者があれば、すなわち「身を悩まさない者は、民のうちから断たれるであろう」(レビ記 23:29)。

そうであれば、今日はどうでしょうか。聖書には「二千三百の夕と朝まで」である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」とあります(ダニエル 8:14 下線部英文訳)。ですから、2300 日が終わった 1844 年以後に住んでいるわたしたちにも、この「身を悩ます」ことが必要不可欠であることがわかります。そして、前記のみ言葉より、きよめの働きには、二種類あることがわかります。第一は「個人の清め」(ダニエル 12:10) であり、第二は「聖所、もしくは教会の清め」(ダニエル 8:14) であります。

ではまず「個人の清め」を、その次に「教会の清め」を研究してみましょう。

個人の清め

清めとはなんのでしょうか。ダニエル 12:10 には「多くの者は、自分を清め」と記されています。これはどのような意味でしょうか。現在のわたしたちの義務をはっきり理解するためには、過去に神がご自分の民をどのように教え、どのように導かれたかを理解することが非常に重要です。旧約聖書には「七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、…」(レビ記 16:29) と記されています。ですから、「身を悩ます」とは、すなわち「清める」ことであることがわかります。

過去イスラエルの民は、どのようにして「身を悩まし(清め)」たのでしょうか。「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き、身を悩まし、主に火祭をささげなければならない。その日には、どのような仕事もしてはならない。……」(レビ記 23:27、28)。「贖罪のわざがなされている間、すべての人は魂を悩まさないならなかった。日常の働きをやめて、イスラエルの全会衆は、その日を厳粛に神の御前にへりくだって過ごし、祈り、断食し、心を深く探ったのであった」(人類のあけぼの上巻 420)。彼らは何のためにこの日に「魂を悩まし、日常の働きをやめて、祈り、断食し、心を深く探って」清めの働きをしなならなかったのでしょうか。彼らの到達すべき標準や目標はどのようなものだったのでしょうか。「主はモーセに言われた、『イスラエルの人々の全会衆に言いなさい、あなたがたの神、主なるわたしは、聖であるから、あなたがたも聖でなけ

ればならない』(レビ記 19:1, 2)。

では、1844 年以後の、現代のイスラエルに神がお求めになる標準、もしくは目標は何でしょうか。また身を清めるべき理由は何か。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタイ 5:48)。

では、わたしたちはどのようにして清めの働きをなすべきでしょうか。過去ご自分の民に完全、もしくは聖を求められた神は、今日もその同様な標準に到達するようにわたしたちに求めておられます。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」(コリント第一 10:31)。ですから、わたしたちの計画や働きそのものがどんなものであれ、神に栄光を帰さないことであるなら、この厳肅な現代、神の民としてそれらを直ちに止めるべきであるということがわかります。「われわれは世界歴史の最も厳肅な時代に生存している。地上のおびたしい数の人々の運命が、決定されようとしている。われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理の御霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、『主よ、わたしは何をしたらいでしょうか』と熱心にたずねるべきである。われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばぎの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。一刻もむだにはできない」(各時代の大争闘下巻 368, 369)。

「特定な事柄のために断食と祈りをするのが勧められており、またそうすることはふさわしい。神の御手にあつて、それらは心を清め、理解の早い思考力を増進する方法である。わたしたちが神の御前で自分の魂を低くするので、その祈りは聞かれるのである。」(医療伝道 283)

「真の断食と祈りの精神は、知性も心も意志も神に従わせる精神である」(食事と食物についての勧告 189)。

「すべての人に勧めなければならない真の断食は、あらゆる刺激的な食物を禁じ、神が豊かに備えて下さった健康的で単純な食物を正しく用いることである」(同上 188)。

「健康改革の働きは主がこの世での苦痛を減らし、ご自分の教会を清めるために備えられた方法である」(教会への証 9 巻 112, 113)。

聖書のみ言葉は、「そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐

れおののいて自分の救の達成に努めなさい」と語っています(ピリピ 2:12)。

過去イスラエルの経験において、彼らは「主の前で」清められたことがわかります(レビ記 16:29, 30)。それでは、神がお求めになる清め、すなわち現代のイスラエルの民はどのようにして主の御前で清められるのでしょうか。これは非常に重要なことです。「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければなりません。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血を注がれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければなりません。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない」(各時代の争闘下巻 140, 141)。

前記の証の中に、「仲保者なしに」という言葉があります。これは何を意味し、また、そのような状態(仲保者なし)で立つためには、どのような状態に到達することが求められているのでしょうか。

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあつて完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。……そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」(各時代の争闘下巻 397)。

ですから、1844 年以後、大いなる贖罪の時に住んでいるわたしたちは「キリストの贖罪の血を信じることによって、罪を捨て去らなければなりません。すなわち、罪から分離しなければならないのです。

「エルサレムよ、あなたの心の悪を洗い清めよ、そうするならば救われる。悪しき思いはいつまであなたのうちにとどまるのか」(エレミヤ 4:14)。

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ」(ヤコブ 4:8)。

しかし、今日、自らの見解に基づいて清められようと努める人々が多く見うけられます。彼らの努力は短期間は続くかのように見えますが、すぐ止んでしまいます。それはなぜでしょうか。「『たといソーダをもって自ら洗い、また多くの灰汁を用いても、あなたの悪の汚れは、なおわたしの前にある』と主なる神は言われる」(エレミヤ 2:22)。これに対する解決方法は次のダビデの祈りの中に見出すことができます。

「神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。……ヒソブをもって、わたしを清めてください。わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください。わたしは雪よりも白くなるでしょう。……わたしの不義をことごとくぬぐい去ってください。神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」(詩篇 51:1, 2, 7, 9, 10)。ですから、わたしたちの清めは自分自身の苦行や行為によるのではなく、「キリストの贖罪の血を信じることによって、罪から分離すること」によるのです。

これについて使徒パウロは次のように語っています。「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいつさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか」(コリント第二 7:1)。これについてのはっきりした方法をペテロは、「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互いに心から熱く愛し合いなさい」と強調しました(ペテロ第一 1:22)。ですから、神によって与えられたすべてのみ言葉に、イエス・キリストの恵みを通して全く服従する者だけが清めの働きを行なっていることがわかります。わたしたちには自分自身の罪をぬぐい去るどんな力もありませんが、世俗的な方法は止めて、断食し、祈り、身を悩まし、信仰によって大祭司のみ働きにわたしたちの目をとめて離さないとき、これを尊ばれる天父がみ子を通して彼らのすべての罪をゆるしてくださるということがわかります。「わたしは彼らがわたしに向かって犯した罪のすべてのとがを清め、彼らがわたしに向かって犯した罪と反逆のすべてのとがをゆるす」(エレミヤ 33:8)。ところでここに、わたしたちが理解すべき問いかけがあります。それは、今日多くの者が罪のゆるしを受けたと公言してはいますが、彼らは真に罪のゆるしを受けたのか、彼らははたして仲保者のいない状態で立つことができるのか、主はどんな者を清めてくださるのだろうかということです。

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる」(マラキ 3:3)。このみ言葉の中で主は「レビの子孫を清め」とはっきり仰せになっています。では、今日レビの子孫とはだれでしょうか。これは、非常に重要な質問です。「宿営の門に立って、モーセは呼びかけた。『すべて主につく者はわたしのものにきなさい』(出エジプト 32:26)。……レビの子孫は偶像礼拝に参加しなかったことが判明した。……このつらい行為を行なったものは、それに従事したことにより、

反逆と偶像礼拝に対する憎しみを表し、真の神の奉仕にさらに自分たちを捧げることを示した。主はレビの部族が忠実であったことを賞賛し、特別の榮譽をお与えになった」（人類のあけぼの上巻 379, 380 下線部脱落）。つまり、彼らは大多数が加わった偶像礼拝に参加しないで、神の戒めに徹底的に服従した群れであったことがわかります。ですから、神は「レビの子孫を清め」と言われたのです。主は今日、霊的イスラエルの子らに向かって、「去れよ、去れよ、そこを出て、汚れた物にさわるな。その中を出よ、主の器をになう者よ、おのれを清く保て」と語っておられます（イザヤ 52:11）。

ですから、「罪のゆるし」、「清め」、「罪をぬぐい去る」という驚くべき祝福はただ口で公言するすべての人々ではなく、神の戒めを自分の命より愛し、それを徹底的に守る人々にだけ与えられることがはっきりわかります。彼らの公言と理論がどんなものであっても、神の戒めを軽視し、それを守らない者は「清め」の働きから除外されたものなのです。ダニエル 12:10 には彼らを指して悟ることはない、悪い者」として分類し、その反面、「清めの働き」に参加する霊的レビの子孫については、「悟り、賢い者」であると言われています。

レビの子孫、もしくは賢い民に、神は次のような驚くべき約束をお与えになりました。「わたしはまた、わが手をあなたに向け、あなたのかすを灰汁で溶かすように溶かし去り、あなたの混ざり物をすべて取り除く」（イザヤ 1:25）。

「預言者イザヤは、神が『審判の霊と滅亡の霊とをもって』ご自分の民を不義から清められると宣言した。イスラエルに対する神のみ言葉は、「わたしはまた、わが手をあなたに向け、あなたのかすを灰汁で溶かすように溶かし去り、あなたの混ざり物をすべて取り除く」であった。罪にとって、それがどこにみいだされようと、「わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である」（ヘブル 12:29）。神の御霊は、その力に服するすべての者のうちにあつて、罪を焼きつくす」（各時代の希望上巻 110）。

聖所、もしくは教会の清め

ダニエル 8:14 には次のようにあります。「彼は言った、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』（ダニエル 8:14 下線部英文訳）。

わたしたちは、上記のみ言葉を通して、いつから聖所の清めが始まるのかがわかります。なぜ聖所が清められるべきであるか。聖所になにか清めなければならないものがあるのか。「1800 年にわたって、聖所の第一の部屋において、こ

の務めが続けられた。キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ、天父に受け入れられるようにしてきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた。型としての儀式において、一年の終りに贖罪の働きがあったように、人類の贖いのためのキリストの働きが終わる前に、聖所から罪を取り除く贖罪の働きが行なわれるのである。これは2300日が終了した時に始まった務めであった。その時に、預言者ダニエルが預言したとおり、われわれの大祭司は、彼の厳粛な働きの最後の部分を行なうため、すなわち聖所を清めるために、至聖所に入られたのであった。古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである。そして、地上の聖所の型として清めが、それを汚してきた罪を取り除くことによって、成し遂げられたように、天の聖所の実際の清めも、そこに記録されている罪を取り除くことによって、すなわち消し去ることによって、成し遂げられねばならない」(各時代の大争闘下巻136)。

それでは、上記で言われた場所は、過去においてはどこを指し、また現在にあっては、どのように適用されるのでしょうか。「聖所とは何かという質問に対して聖書ははっきりと解答を与えている。聖書に用いられている『聖所』という言葉は、まず第一に、天にあるもののひな型としてモーセが建てた幕屋をさし、そして第二に地上の聖所が指し示していたところの、天にある『真の幕屋』をさしている。キリストの死によって、型としての奉仕は終わった。天にある『真の幕屋』は、新しい契約の聖所である。そしてダニエル書8:14の預言は、この時代に成就されるのであるから、ここで言う聖所は、新しい契約の聖所であるに違いない。2300日が1844年に終結したときに、この地上には幾世紀もの間、聖所はなかった。こうして、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という預言は、疑いもなく天の聖所をさすのである」(各時代の大争闘下巻130)。

ですから、過去の聖所は神がモーセに、「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」(出エジプト25:8; ヘブル8:5参照)と言われた地上の聖所、すなわち神の律法が納められていた契約の箱と、マナのはいつているつば、芽を出したアロンのつえとがあり、何よりも神のご臨在がともにあった聖なるところであったことがわかります。では現在はどうでしょうか。

「わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、

彼らはわたしの民となるであろう』。だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。』（コリント第二 6:16, 17）。

「あかしをたばねよ。律法をわが弟子たちのうちに印せよ」（イザヤ 8:16; 各時代の大争闘下巻 175 参照）。

ですから神は、今日わたしたちの時代に神の証の言葉をたばね、律法を印したその弟子たちが、天とつながっている神の聖所であると仰せになっています。「世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをお持ちになっていた。彼らは、彼らが生きた世代に忠実な証を立ててきたのである。……神はこうした証びとを神との契約関係におかれて、地上の教会を天の教会と結ばれたのである。神はご自分の教会に仕えさせるために、天使たちをおつかわしになった。そして、黄泉の力は神の民に打ち勝つことができなかつた」（患難から栄光へ上巻 3）。

神がこの教会にお求めになることは何でしょう。「また指をもって七たびその血をその上に注ぎ、イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、……この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」（レビ記 16:19, 30）。

「こうして、幕屋の務めと、のちにこれにとって代わった神殿の務めから、民はキリストの死とその務めに関する真理を日ごとに学び、そして、毎年一度、彼らの心はキリストとサタンとの間の争闘の終結、宇宙が罪と罪人から清められる最終的な清めに向けられたのであつた」（人類のあけぼの上巻 423）。

神がご自分の教会に清めを求めておられるとすれば、そこには神ご自身の明白な摂理があるはずで、「第三天使の使命は大いなる叫びにまで高まりつつある。あなたがたは現在の義務を軽視しながら、将来大いなる祝福を受けたり、あなたがた自身の努力なしに驚くべきリバイバルの起こる時があるかのように思つてはならない。……今日あなたがたは自分の器を清めて、天の露を受ける準備をし、後の雨を受ける準備をしなければならない。なぜなら、後の雨の降下は確実であり、神の祝福はすべての汚れから清められた魂にあふれるばかりに与えられるからである。今日、わたしたちがすべきことは、わたしたちの魂をキリストに明け渡し、主の御前からくる慰めの時のために準備し、聖霊のパプテスマを受けるにふさわしい者となることである」（福音伝道 701, 702）。

「天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から取り除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない」（各時代の争闘下巻 141）。

「教会は、神の御前に悔い改めて心を低くし、心を深く探ることによって、清めの働きを始めるべきである。なぜなら、わたしたちは、本体の贖罪の日、すなわち永遠の結果をはらんだ厳粛な時代にいるからである。……性質を和らげて、聖化し、精錬する神の真理の感化によって、彼らは清められた器となるのである」(エレキッド・メッセジ 2 巻 378)。

過去の歴史において各個人が清められる方法は、「身を悩ます」ことであつたことをすでに研究しました。それでは、神がご自分の教会を清めるためには、どんな方法をお用いになるのでしょうか。「この清めは、型としての儀式においても実際の儀式においても、血によって成し遂げられなければならない。前者は、動物の血によって行なわれ、後者は、キリストの血によって行なわれる。パウロは、なぜこの清めが血によって行なわれねばならないかということの理由として、血を流すことなしには、罪のゆるしが無いからであると述べている。ゆるし、すなわち罪の除去という働きが、成し遂げられなければならない」(各時代の斗争闘下巻 131)。

「神は神の民を清め精錬するために、彼らに苦い杯を飲ませられることを、わたしに示された。それは苦い杯である。そして、不平不満つぶやきによって、それをさらに苦くすることができる。しかし、このようにしてそれを受ける人々は、もう一つの杯を飲まなければならない。なぜならば、最初のものが、心にその意図された効果をあらわさなかったからである。もし二度目の杯が効果をあらわさなければ、その効果があらわれるまで、彼らはまたその次も、そしてまたその次の杯も、飲まなければならない。さもなければ彼らは、その心が汚れたまま放置される。この苦い杯は、忍耐、辛抱強さ、祈りによって甘くすることができ、それをこうして受ける人々の心に、その意図された効果をあらわし、神に栄光と誉れとが帰せられることをわたしは見た」(初代文集 113)。

「主はご自分のさばきが著しく世に下る前に、ご自分の教会を清くされるであろう」(ビュー・アソド・ワルド 1906 年 11 月 8 日)。

ご自分の民、すなわち教会を清めるために、ご自分の命と、またなにもも惜しまれなかつた主イエス・キリストの無限な愛について、聖書は次のように語っています。「……キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように……しなさい。キリストがそうなされたのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」(エペソ 5:25 ~ 27)。

「キリストは彼の教会が世の光に照らされ、インマヌエルの栄光に輝く改変された一団の人々となるために、あらゆる備えをなされた」(国と指導者下巻 320)。

次に教会が清められるために必ず解決すべき幾つかの重要な点を要約してみましょう。

1. 世との関係を断ち切る (ヨハネ第一 2:15)

『律法を捨てる者は悪しき者をほめる』(箴言 28:4)。大いなる純潔を主張しながらも世俗と一致している人々が、常に真理の運動に反対していた人々と合同するように訴えるときに、われわれは彼らを恐れ、ネヘミヤのように断固として回避しなければならない。このような勧告は、あらゆる善いものの敵の煽動によるものである。それは日和見主義者の言葉であるから、当時と同様今日においても、はっきり拒否しなければならない。神の指導力についての民の信仰を覆す影響力は、何であつても厳として抵抗しなければならない」(国と指導者下巻 260, 261)。

2. 他の宗教団体との関係を断ち切る (黙示録 14:1～5; ヤコブ 4:4)

「教会員は世の人々が愛するものを愛し、すぐに彼らといっしょになるので、サタンはこの人たちを一体として結合させ……ようと決意している。……彼らはこの合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである」(各時代の争闘下巻 351)。

「悪人たちは企業合同、労働組合、各種の同盟団体に束ねられつつある。わたしたちはこのような団体とどんな関係も結んではならない」(ハイヴル・コメンタリ [E.G. 柯什メント] 4 巻 1142)。「救い主はユダヤ人が国家として神から離れて関係を絶つことをご覧になったとき、また自称キリスト教界が世と法王権に結合することもご覧になった」(ビュー・アンド・ハルド 1901 年 10 月 8 日)。

3. 教会の中のアカンたちを取り除く

「この指示 (マタイ 18:17, 18) を果したとき、教会は神の前に責められるところのないものとなる。そのとき、悪事をありのままに示して、取り除かなければならない。それは、悪がますます広がらないためである。教会がキリストの義の衣を着て、神の前に汚れなく立つことができるように、教会の健全さと純潔が保たなければならない」(教会への証 7 巻 262, 263)。

「教会の中にある罪と罪人を直ちに処理することによって他の人々が汚染され

ないようにせねばならない。真理と純潔は、わたしたちが陣営からアカンたちを取り除いて清めるために、もっと徹底的な働きをするよう要求する。責任のある地位についている者は、兄弟が罪を犯しているのを黙認してはならない。その人に自分の罪を捨てるか、さもなければ教会から去らなければならないことを示しなさい」(教会への証 5 巻 147)。

4. 教会の中に入り込む流行を処理する

「改心を告白する人が単にセブンスデー・アドベンチストを名乗っているのか、それとも世から分離し、汚れたものにさわらないようにと主の側に立っているかどうかを知るべきである。……もし彼らが世の習慣、流行、感情に従っているようならば、慎重に対処しなければならない。もし彼らが自分の生き方を変える責任を感じていないならば、教会員としてとどめておくべきではない」(牧師への証 128)。

5. 偽教理と偽信者に注意(黙示録 2:2, 3)

「神はこの終りの時にひとつの民を選び、ご自分の律法の保管者とされた。そしてこの民にはいつもなすべき不愉快な働きがある。〔黙示録 2:2, 3 引用〕。この働きには、教会の中に悪を入り込ませないための大変な勤勉さとたゆまない苦闘が要求される。厳格で公正な原則が実行されなければならない。なぜなら、信仰の体裁だけ整えた人たちが、他の人々の信仰を衰えさせようとし、また自分自身を高めようとひそかに働くからである」(教会への証 5 巻 538)。

6. 初めの愛の回復(黙示録 2:4, 5)

「長い間、真理のうちに歩んできた多くの人々の心の中に、厳しい、さばきの精神が侵入している。彼らは鋭く、批判的で、あら探しをする。彼らは、さばきの座に上がり、自分たちの見解に一致しない者に判決を下す。神は彼らに、そこから下りて、悔い改め、神のみ前にひれ伏して罪を告白するようと呼びかけておられる。神は『あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行ないなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』と彼らに言われる(黙示録 2:4, 5)。彼らは最高の地位を求めて競い、言葉と行ないによって多くの人々の心を傷つける」(教会への証 8 巻 298, 299)。

7. 標準を高める

「罪で魂を汚すよりは、むしろ貧困でも、非難でも、友人からの別離でも、どんな苦難でも受けることを選びなさい。不名誉なことをしたり神の律法を犯したりするよりは、むしろ死んだ方がよいというのがすべてのクリスチャンのモットーでなければならない。改革者であることを公言し、最も厳粛な人を清める真理を尊ぶ民として、われわれは標準を現在よりもはるかに高く掲げなければならない」(教会への証 5 巻 147)。

「たといどのような代価を払うことになっても、すべての点において標準を満たし、あらゆる試みに耐え、また打ち勝つ者は、まことの証人の勧告に聞き従ってきた。」(教会への証 1 巻 187)。

「人気と数の増加を確保するために標準を低くし、その増加を喜ぶのは、大変な盲目である。もし、数が成功の証拠であるなら、サタンは自己の卓越さを主張するであろう。なぜなら、この世の大多数の人々が彼の従者だからである」(教会への証 6 巻 143)。

結論

「この働き(清めの特別な働き、すなわち罪の除去)が成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。……その時、主が再臨されてご自分のもとに受け入れられる教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、……栄光の姿の教会』である(エペソ 5:27)。また、その教会は、「しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者」である(雅歌 6:10)」(各時代の争闘 下巻 141)。

(56 ページの続き)

(いた) みにくるしまれましたが、このお方の大きな心配は、わたしたちがご自分の愛(あい)を通して救(すく)われることだったのです。

この大いなる愛のかすかなひらめきは、自分の子どもたちに対する親(おや)の愛のうちに見られます。ある子どもたちは、この愛にこたえて「大海のようにたくさん」愛しているとか、「世界中のぜんぶの数くらい」愛していると言います。

もっとも大きな愛は、犠牲(ぎせい)のうちに見出されます。つまり、自分自身が痛みを感じているときに、だれか他の人のことを心にかけることです。またわたしたちが、ときにはかんたんではないときでも、親に従(したが)うときに、愛が表わされます。

イエスはわたしたちに、「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。……わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である」と言われます(ヨハネ 14:15, 21)。イエスはわたしたちがご自分を愛して従い、イエスのためにどんな苦(くる)しみでもよるこんで受けるときに、ご自身をもっと完全(かんぜん)にわたしたちに表わしてください。「御霊(みたま) みずから、わたしたちの霊(れい)と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、相続人(そうぞくにん)でもある。神の相続人であって、キリストと栄光(えいこう)を共にするために苦難(くなん)をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの時の苦しきは、やがてわたしたちに現(あらわ)されようとする栄光に比べると、言うに足りない」(ローマ 8:16 ~ 18)。

イエスはわたしたちのためにたいへん苦しわれました。そしてこのお方はわたしたちもご自分のために苦しむことによってこの愛にあずかるようにと求めておられます。このお方の物語は、ハッピーエンドです。なぜなら、とても多くのたましいが、このお方の苦しみの結果(けっか)として、栄光のうちに救われるようになるからです。わたしたちがこのお方がわたしたちをどれくらい愛しておられるかをたずねるとき、このお方はご自分のみうでを十字架の上にひるげて、「これくらい!」と言われます。

ところで、アニーのお話もハッピーエンドです。アニーがその晩ねむったら、次の朝には、びっくりしたことに、なっていたのです。

なすの詰めもの—しょうが風味—

【材料（4人分）】

茄子	中4本
玉ねぎ	中2個
人参小	1本
キノコ好み（みじん切り）	カップ 1/4
セロリ（葉の部分みじん切り）	カップ 1/4
クルミ（みじん切り）	大さじ2
塩	小さじ 1/2
しょうゆ	大さじ2
しょうが（すりおろしたもの）	少々
オリーブオイル	適量
パン粉	少々

【作り方】

1. 茄子はヘタを整えて縦半分になり、水につけ、皮から2ミリくらいのところに包丁を入れ、中身を取り出し、皮は器にするため、水にそのままつけておく。（包丁を入れるとき、皮に傷がつかないように気を付ける。中身が漏れ出ないため。）
2. 玉ねぎをみじん切りにし、フライパンに水少々を入れてふたをし、蒸し煮にする。人参もみじん切りにして加え、キノコ、茄子の中身をさいの目切りにしたものを加え、セロリの葉、クルミ、調味料を入れ、全体に火が通るまで炒める。味をみて、好みに調節する。このとき、好みでオリーブオイルを入れる。味が濃厚になります。
3. 茄子の皮を水から出して布巾でふき、へらで皮に形よく詰め、パン粉を振って、オープンに入れ、210度で12分焼く。パン粉にきれいな色がついたら出来上がり。
4. 皮も食べられます。

お好みでトマト味、カレー味も。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



大きな、大きな 愛(あい)



アニーは、ずっと前に、わたしの玄関のところにすがたをあらわした、愛らしいまよい犬でした。アニーがそばにいると楽しいので、わたしの相棒(あいぼう)として飼うことにしました。それから、まもなくアニーは子犬たち—6匹のかわいい子たち—を生まれました。

アニーはとても走るのがはやい犬でした。毎日、夕方には遠くからわたしの車の音を聞きつけます。それからふだんは静かな田舎道を25メートルかそれよりもっと長く、わたしに会いたくてダッシュして出てくるのです。しかし、ある晩おそく、別の車もそこにいて、道路を走ってくるアニーを引いてしまったのです。なんとショックなことでしょう!はじめ、わたしはアニーが死んでしまったと思いました。そのあと、アニーはただマヒしているだけのようなのでした。ちょっとのあいだ、横になったあと、アニーはよたよたと自分の前足だけで何とか前に進み、血の気を失い、ぺちゃんこになった後ろ足をひきずりながら、草の上を歩いていきました。

アニーはとても急いでいて、裏庭(うらにわ)のほうへ必死(ひっし)に苦労しながら、できるだけはやく進んでいきました。「どこ行くんだろう?」わたしは不思議(ふしぎ)に思いました。

そのとき、わたしはアニーが自分の小さな犬小屋へまっすぐに行っているのを見て、答えがわかりました。子犬たちです!彼らこそ、アニーの主な心配(しんぱい)でした。アニーはちゃんと彼らにミルクをあげたかったのです。アニーにとってそのとき、それより大事(だいじ)なことはありませんでした。これはわたしが決してわすれることのできない実物教訓(じつぶつきょうくん)でした。

神様にとって、わたしたち—ご自分の子どもたち—の世話をすることより大事なことはありません。イエスは十字架(じゅうじか)上で大変な痛